

会報

Since 1999

【お知らせ】今年度のバザーは中止といたします

毎回留学生から大好評のバザーですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく中止といたします。ご理解のほどお願い申し上げます。

Pick Up
Event 2020

留学生支援の会の活動に参加してみませんか？

留学生の笑顔を作る活動です。興味のある方は当会までお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-2 東京外国語大学留学生支援の会 TEL 042-330-5803 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

Contents

Page 1.	1. 巻頭言	林 佳世子 学長
Page 4.	2. ご挨拶	
Page 5.	3. 事業報告・会計報告	
	3-1	令和元年度事業報告
	3-2	令和元年度会計報告
Page 9.	4. 事業計画・予算	
	4-1	令和2年度事業計画
	4-2	令和2年度予算
Page 11.	5. 今年度の留学生支援の会の活動について	
Page 12.	6. ホームステイ報告	
		ふじのくに留学生ツアー
Page 15.	7. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う留学生の状況	
		(緊急寄稿)
Page 22.	8. 会員の皆様の声	
Page 23.	新入会員・ご寄付御礼	
		ご寄付のお願い

FOCUS

1. 巻頭言

新型コロナウイルス感染拡大問題と大学

東京外国語大学長
林 佳世子

2020年、世界は新型コロナウイルス感染拡大問題に覆われています。2020年1月に中国・武漢で深刻化し、その後、2月には日本を含む東アジアでくすぶっていたところ、3月に入るとヨーロッパで感染が拡大し、イタリア、スペイン、そしてアメリカ合衆国で中国を上回る死者を出す事態となりました。日本でも4月以降、急速に感染が拡大し、4月8日には緊急事態宣言が出されました。この宣言は、5月25日には解除されましたが、東京都では今も多くの感染が確認されており、事態は予断を許しません。また、世界各地で更なる拡大がつづいています。

先行きの見えないこの事態に、日本社会全体同様、本学も大きな影響を受けています。本学には、多数の外国人留学生と、多数の留学中の学生がい

たことから、当初より特段の緊張感をもって対応してきましたが、問題の焦点は徐々に変わり、今も終わりが見えません。とはいえ、これまでの対応を振り返っておく必要もあるでしょう。ここでは、6月20日時点での「振り返り」を記させていただきます。

1. 第一段階：中国からの来訪者への対応

1月に中国・武漢を発祥地に「新しい病気の蔓延」が伝えられました。幸い、本学から武漢地域への派遣留学生はいなかったことから、当初は、研究者間の交流の自粛の可否が問題となりました。続いて、中国から来日し、本学の大学院入試や学部入試を受ける学生が問題となりました。1月の大学院入試は、別室受験という対応でしのぎました。

2. 第二段階：本学から海外留学している学生への対応

2020年3月時点で、短期海外留学中の学生が280名、長期派遣留学が267名、長期休学留学が145名と、700名近くが海外にいる状況でした。

この約700名の留学中の学生に対し、本学の留学者管理システムである「ただいま留学中」データをもとに留学支援共同利用センター職員が昼夜を問わず連絡し、全員とのコンタクトを確保しました。当初は中国、韓国にはじまり、やがて、ヨーロッパ全域、東南アジア諸国、南アジア、中東、米国、中南米と「帰国要請」の範囲が拡大されました。最終的には、政府が全世界を危険レベル2以上としたことで、留学中の全学生に「帰国命令」が出されることになりました。

その過程では、アジア人として不当な扱いを受けた学生、駅での体温測定で強制的に入院させられた学生、別の病気で病院に行ったところ入院措置となった学生などの問題が、世界各地で発生しましたが、その度に本学がもつ現地のネットワークを最大限活用し、状況の改善に努めました。

そして、4月初旬には約100名の学生を残し、500名の学生が帰国しました。世界に100名の学

生を残したことに心配の声もあるかもしれませんが、たとえば、本学には逆に日本に留学してきている学生108名が残留しています。本学としては、保護者の理解のもと、現地の人々とともに、自宅待機などのルールを守りつつ、留学の継続を選択する学生の意思を尊重しました。

ただ、海外から日本への帰国、日本から海外への帰国の時期が近づいた現在（6月末）では、帰国便の確保の心配が生まれています。便があっても、航空運賃が高値となっているとの情報もあります。海外から日本へ、日本から海外へ、双方の移動が順調にいくことを祈っています。

3. 第三段階：年度末、年度初めの重要な行事への対応

大学にとって卒業式・入学式は非常に重要な行事であり、学生一人一人の人生にとっても、節目の行事ですが、事態の推移のなかで、いずれも中止を余儀なくされました。

4. 第四段階：外国から本学に入学する留学生新入生への対応

本学は、この4月に、学部42名、大学院118名の外国からの新入生（正規生）を迎えることになっていました。このほか、4月来日予定の交換留学生（非正規生）63名、外国人研究生52名が予定されていました。

このうち、正規生の新入生に対しては、このまま4月に入学するか、あるいは10月に入学時期をずらすかの選択をお願いしましたが、状況が刻一刻変わるなか、最終的に4月入学者が決まったのは、4月1日になっていたと記憶しています。交換留学生については、極力、10月来日への延期をお願いしました。

現在、2年生以上もあわせ、53名の正規生留学生が、海外在外のまま本学のオンライン授業を受けています。時差等での苦労はありますが、世界のどこにいても本学の教育が受けられるということはこれまででは考えられないことです。一方、留学を打ち切って日本に帰国した学生のうち、91

名が協定校の提供するオンライン授業を、日本で引き続き受けています。オンラインによる共同教育の今後の可能性をもっとも感じさせてくれるのは、こうした事実です。

5. 第五段階：新学期の授業実施への対応

本学は、事態の深刻さが、「正規生留学生の来日が若干遅れるだろう」という程度の頃（つまり、1月下旬）から始業の延期を検討していましたが、最終的には3月17日に、春学期の始業を4月20日とする発表を行いました。それと同時に4月20日から対面の授業ができないことを想定し、2月よりオンライン授業の可能性の検討をはじめました。学内では3月中旬にはZoomの講習会が行われ、教員の間には有志によるZoomお助け隊が立ち上がりました。ZoomやMoodleの活用法を相談する場ができたことは本当にありがたいことでした。そして、事態の推移に応じ、いったんは5月7日までとしたオンライン授業期間を、春学期のおわる7月17日までとする発表を4月7日に行いました。

この間、一番心配されたのが、学生のパソコン等の所有状況とネット環境でした。これについては新入生を含む全在校生にアンケートを実施し、困っている学生を割り出す努力をしましたが、パソコン・タブレット所有率が新入生96.3%、在校生97.2%、自宅等にネット環境のある学生の比率が新入生95.2%、在校生93.6%という結果が出てほっとしました。とはいえ、困っている学生も確実に存在します。それらの学生に対しては、4月に新設されたアカデミック・サポートセンターが対応し、タブレットやWiFiルータの貸し出しを行っています。

なお、大学も東京都の自粛対象となりましたが、本学は、大学全体をロックアウトすることはせず、近隣のアパートや寮に住み、ネット環境の脆弱な学生には、徹底的に3密をため講義棟の1教室に1人ずつを割り当て、大学のネット環境を利用してもらっています。通常、30名程度の学生が利用しています。また、自宅でのオンライン授業実施

に困難のある常勤、非常勤の先生方にも、講義棟で授業を行ってもらえる体制を整えました。これらの実施には、教育情報化支援センターにたいへんお世話になっています。また、附属図書館が開始した貸し出し図書の郵送サービスは、多くの学生に利用されています。

6月下旬の時点でオンライン授業そのものは、比較的スムーズに行われています。4月20日の開始当初は、技術的なトラブルや連絡ミスなどで少し混乱しましたが、5月に入るとそれも収まり、学生の皆さんも教員も、オンライン授業にすっかり慣れてきたように思います。とはいえ、様々な問題もあります。5月末から学生アンケートを行い、学生の声を直接集めました。授業時間内の小休憩の普及や、コメントシートを書く時間の確保など、今できる工夫から始め、改善に努めているところです。

6. 第六段階：学生への経済支援対応

コロナの影響が社会生活全般に及ぶなか、学生の中にはアルバイトの仕事がなくなるなどし、経済的に困る学生も多数生まれています。

本学では、授業料の納付期日を6月末に変更したほか、4月16日から「新型コロナウイルス感染症に係る緊急無利子貸与奨学金」制度を開始し、申請者への10万円の貸与を開始しました。また、授業料免除については、日本学生支援機構（JASSO）を通じた免除に加え、本学独自の免除も行っています。5月以後、国からも、「新型コロナウイルス感染拡大による家計急変に対応する授業料免除」や、「「学びの継続」のための『学生支援緊急給付金』制度」などが、矢継ぎ早に発表され、現在は、大学として、その適切な運用に努めているところです。

しかし、問題の長期化も心配されています。このような制度での救済に漏れた学生に対して、大学としてどのような経済支援ができるか検討しているところです。7月10日に第一回の実施を予定している食料支援「フードパントリー」など、きめ細かい支援ができればと考えています。

7. 第七段階：秋学期以後への対応

本学は、7月17日から9月30日の夏学期集中講義については、一部対面での実施を予定しています。緊急事態宣言が解除され、社会全体で「正常化」に向けた取り組みが進む中、大学としても、慎重に一步を踏み出す必要があると考えているからです。学生のサークル活動についても、諸団体と協議しつつ、できるところ・できることから始めていく予定です。この「緩和」のプロセスでは、学生の皆さんには、大学からの指示を待つのではなく、当事者として、何ができるか、何をしなければいけないかを考えていただきたいと思います。New Normalな社会は、私たちみんなで作っていかねばいけないと思うからです。

とはいえ、大学が決めなくてはいけないことも多々あります。秋学期の授業体制のこと、入試のこと、さらには、様々な事柄に関する来年度の方針、などです。現在、学内での協議が続いています。先が見えないなか、重たい問題も多々ありますが、進んでいくしかありません。世界各地と結んだオンラインでの教育が、本学の教育に大きな革新をもたらすことなどは疑いがありません。この状況をポジティブにとらえ、これから長く続いていくであろう With Corona の時代、あるいは、その先の After Corona の時代に、本学の教育研究がよりよいものとなっていくよう努めて行きたいと思えます。

(注記) 本稿は、『全普高会誌』68号(2020年6月刊行)に寄稿した文章(2020年4月10日脱稿)の一部を利用し、その後の出来事を加筆したものです。

2. ご挨拶

新型コロナウイルス感染下での留学生支援

東京外国語大学留学生支援の会会長

谷 和明

(東京外国語大学名誉教授)

会長にという打診を受けたのは昨年末でしたが、本当に驚きました。適任と思われる方々の顔を思い浮かべながら、およそ「長」の重責に相応しい資質に欠ける私にどうしてという戸惑いもありました。とはいえ、中嶋元会長から会の世代交代を託された鮎沢前会長が健康を害され、至急後任を必要としている事情を知り、さらに留学生支援活動の重要性を考え、あえてお引き受けする覚悟を固めました。

本学在職中は、留学生日本語教育センターの教員として25年近く留学生教育に従事してきました。生涯学習、地域市民文化活動を研究対象にしており、その関連で退職後は他大学の非常勤で、本会のような市民ボランティア組織の役割と運営に関する科目も担当してきました。もともと、会長就任の機縁となったのはおそらく前者の経歴でしょう。もちろん、自らの留学生教育の経験を本学の留学生支援活動に役立てることができれば欣快の至りです。と同時に、市民ボランティア活動に関して調べてきたことの実践性を試される思いでおります。

とはいえ、よりによって大変な時期にお引き受けしたというのが正直な感想です。1月に本会幹事会にオブザーバーとして初参加したときには、新型コロナウイルスはまだ自分たちの問題ではありませんでした。2月になっても感染への警戒心を高めつつ、計画された文化体験事業は実行されました。その後、事態は加速度的に深刻となり、3月には幹事会すら開催できず、私の会長就任も、3月末のメール会議での承認という、異例の出発となりました。

外語大でも、既にご承知の通り、卒業式、入学

式をはじめ各種の行事や催事は軒並み中止、延期となり、連休明けに開始した授業も全面オンラインで実施という、まさに前代未聞の事態が続いています。学内立ち入り自粛が強く要請され、人影のないキャンパスで緑が生き生きと繁茂するシュールな光景です。緊急事態宣言や東京アラートの解除にともない、大学も自粛・制限措置の緩和を進めていますが、第2波、第3波の感染拡大が予測されるなかで、秋冬はいうまでもなく、次年度のことすら予断を許さない状態にあります。

国際的移動の全面的な制限は、「留学」に大きな影響を与えています。現在外語大に在籍する留学生数は、昨年と比べて2割近く減少して670名弱となりました。しかも、この数字には来日できず自国でオンライン授業を受けている「留学生」も相当数含まれます。日本に滞在している留学生も、多くがアルバイト収入の激減による生活困窮をはじめ、住居、食事、必要な情報入手などで従来にない困難に直面しています。そもそも、日本人との交流や日本の社会、文化の体験を期待して留学した青年たちが、自室に閉じこもってオンライン授業という日常を強いられるわけで、その心中は察するに余りあります。さらに、留学を修了したが帰国不可能となり、不安定な状態に置かれている「留学生」も存在します。

以上のような状況にある留学生が、従来以上の支援を必要としていることは言うまでもありません。ところがその一方で、留学生支援の会の活動もまた大きな制約、困難に直面しています。「三密」回避が要請される下で、従来の支援、交流活動のほとんどは実施不可能となり、会の会合すら困難な状態が続いています。これは大きなディレンマですが、それにたじろぐことなく、「今できること」「今だからできること」を着実に実行するほかありません。

その一歩として、生活困窮に陥った留学生への緊急生活支援金支給を事業計画に組み入れました、皆様からの会費や寄付に込められたご厚情と共に支援を要する留学生に届けたいと思います。

最近、留学生の窮状を案じる数名の会員が寄付

を寄せてくださいました。バザー中止で収入減の会にとってまさに有り難い限りですが、それ以上に会の活動が会員の協力によって支えられてきた事実を実感し、励まされました。

今後どのような留学生支援が可能なのか、留学生の実情に関する情報をどう収集するか、会員間の意見交換や情報共有をどう行うか、新しい会員の募集をどう行うか、全国の会員の参加、協力をどう促進するかといった課題に、会員の皆様すべてのご提案、ご意見をいただきながら取り組んでいく所存です。

最後に、コロナ感染の下での留学生支援活動の継続、発展のため、皆様の倍旧のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

3. 事業報告・会計報告

3-1 令和元年度事業報告

A. 生活支援事業

1. 給付事業

(1) 生活用品などを廉価で提供するバザー

1) 春期バザー

平成31年4月5日(金)～6日(土)

場所 国際交流会館2号館交流ホール

来場者 約200名

収益金：268,500円

2) 秋期バザー

令和元年9月26日(木)～27日(金)

場所 国際交流会館2号館交流ホール

来場者 留学生約200名 日本人学生
数名

収益金：183,800円

各バザーとも品物のご提供、お手伝い等
ありがとうございました。

(2) 学会発表旅費の助成金を支給

海外学会発表 1人5万円を5名に支給

○2019年5月10日～12日

2019 年日本教育と日本学研究国際シンポジウム

(上海・同済大学)

○2019 年 8 月 23 日

韓国日本研究団体第 8 回国際学術大会

(韓国・淑明女子大学)

○2019 年 8 月 24～25 日

漢日対照言語学研究会

(西安外国語大学)

○2019 年 10 月 25 日

東アジアと同時代日本語文学フォーラム第 7 回台北大会

(政治大学)

○2020 年 1 月 9 日～11 日

第 5 回アジア未来会議

(フィリピンメトロマニラ・アラパン、フィリピン大学ロスパニョス校)

国内学会発表 1 人 2 万円を 3 名に支給

○2018 年度未払い分

○2019 年 9 月 14 日

第 5 3 回日本語教育方法研究会

(福島大学)

○2020 年 2 月 16 日

外国語授業実践フォーラム第 19 回研究会合

(在日本韓国民団三重県本部)

2. 相談事業

留学生の住居・学費・引っ越し・アルバイト等に関する身近な相談に対応しました

B. 友好親善事業

1. 国際交流事業

国際交流事業を大学と共催しました

令和元年 12 月 6 日(金)

13 時～17 時 日本の伝統文化体験(生け花・茶道・着付け・囲碁など)

18 時～20 時 国際交流の夕べ

大学会館 1F にて開催

2. 会員等の協力による友好親善事業

(1) ふじのくに留学生支援の会による

「ふじのくに留学生ツアー」

令和 2 年 2 月 22(金)～24 日(日)

留学生 9 名参加

本来、受け入れ枠は 15 名でしたが、新型コロナウイルス問題で例年より少ない参加者となりました。

(2) 会員によるホームステイの受入れは今年度ありませんでした。

C. 日本理解事業

1. 伝統文化の見学

(1) 歌舞伎見学・懇親茶話会開催

令和元年 6 月 2 日(日)

国立劇場「歌舞伎鑑賞教室」にて「神霊矢口渡」を見学しました。

参加者 留学生 44 名、日本人学生 4 名、幹事 7 名(合計 55 名)

(2) 「小江戸」川越文化体験ツアー

令和元年 12 月 2 日(日)

従来の「浅草・隅田川クルーズ」に代わる企画でしたが、参加留学生全員が「小江戸」初訪問を楽しんでくれました。

参加者 留学生 17 名、日本人学生 4 名、幹事 5 名(合計 26 名)

(3) 「福生」日本と西洋の飲食競演ツアー

令和 2 年 2 月 20 日(日)

参加者 留学生 12 名

大学から 1 時間弱という近隣地で、和洋両者の食文化比較体験を目的として、今回初めて企画しました。

訪問先：大多摩ハム工場、田村酒造所

(4) 古都鎌倉見学ツアー

例年 2～3 月に実施していましたが、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、中止しました。

2. 伝統文化の体験・学習

(1) 伝統文化体験教室を大学と共催

令和元年 12 月 6 日(金)学生会館など
振袖着付け約 45 名、華道約 45 名、茶道
役 35 名

来場者 合計 125 名

(2) 伝統文化指導教室を開催

①書道、囲碁 通年週 1 回

②華道、茶道 通年月 2 回 および SSP
留学生に冬、夏 2 回実施

お茶会(七夕茶会)はありませんでした。

(3) 日本語広場を開催

通年週 3 回

参加者 講師 4 名、受講者延べ 140 名

3. 日本の「今」を知る

今年度は実施できませんでした。

D. 国際理解事業

1. 各国文化紹介

各国のお茶・お菓子を通しての文化紹介は、日程調整等の理由で開催できませんでした。

2. 国際理解教育への協力

令和元年度は依頼がなく実施しませんでした。

E. 広報その他の事業

1. 「会報」を 3 回発行

第 61 号(令和元年 6 月) 第 62 号(同 11 月)
第 63 号(令和 2 年 3 月)

2. 会員募集の説明を実施

大学新入生入学式の際(平成 31 年 4 月 6 日)に、会場の外で会長・幹事と留学生有志が入会を呼びかけました。

3. 幹事会の開催

幹事会を開催して行事の企画・運営等を相談しました

平成 31 年: 4 月 21 日(日)

令和元年: 5 月 19 日(日)、6 月 16 日(日)

7 月 14 日(日)、9 月 15 日(日)、10 月

20 日(日)、11 月 17 日(土)、12 月 15 日(日)

令和 2 年: 1 月 26 日(日)、2 月 16 日(日)

なお、3 月はコロナ感染予防のため、会議形式の幹事会に代わってメール会議としました。

4. 外語祭バザー

令和元年 11 月 22 日(金)~24 日(日)

場所 研究講義棟 2 階 226 号室

来場者 延べ 300 名

作業員 留学生 8 名、幹事 20 名

収益金: 209,545 円

※バザー残品を外語祭来訪者へ販売しました。売上金は留学生支援活動に充てています。

5. 「入会の葉」改訂

新会員募集への当会活動紹介を目的として、新たに「東京外国語大学 留学生支援の会 <入会のご案内>」を作成し、随時配布・活用中。

6. 会則・人事

3 月の幹事会において、年度末に鮎澤孝子会長が退任して顧問となり、新年度より谷和明氏(東外大名譽教授)を新会長として選任することを承認しました。

3-2 平成31年度（令和元年度）会計報告

A. 平成31年度（平成31年4月～令和2年3月）一般会計収支決算

東京外国語大学留学生支援の会 令和元年度 一般会計収支決算 平成31年4月1日～令和2年3月31日

《収入の部》

科目	項目	元年度予算額	元年度決算額	摘要
前年度繰越金		4,820,278	4,820,278	
会費	一般会員	1,905,000	1,872,000	3,000×150名=450,000 12,000×117名=1,404,000 8,000×3名18,000
	協賛会員	40,000	20,000	20,000円×1名
寄付	一般	300,000	238,000	
その他	バザー等	1,000,000	764,465	バザー収益金・行事参加費・学生後援会補助金
	利息	10	11	
収入の部合計(A)		8,085,288	7,714,782	

《支出の部》

科目	項目	元年度予算額	元年度決算額	摘要
活動費 (友好親善事業・ 相互理解事業)	国際交流行事共催費	380,000	312,500	伝統文化体験費・交流会費(大学との共催)
	史跡見学費	120,000	-	鎌倉見学
	日本文化見学費	500,000	309,025	歌舞伎見学・川越ツアー・相生ツアー・ふじの国ツアー
	日本先端技術見学費	150,000	-	工場見学
	日本文化体験費	150,000	135,237	稽古・書道・茶道・日本語広場
	日本人学生との交流会費	100,000	-	茶・菓子等
	その他の交流活動費	10,000	-	国際理解教育謝金・交通費
活動費 (生活支援事業)	教育研究支援金	320,000	310,000	国際学会発表出席旅費補助金
	連絡室協力謝金	500,000	245,500	留学生連絡室協力謝金
活動費 (広報普及事業)	通信費	300,000	285,061	会報発送費等
	印刷費	400,000	371,821	会報印刷費等
	活動費小計(a)	2,930,000	1,969,144	
運営費	消耗品費	30,000	22,711	プリンターインク代等
	備品費	20,000	11,344	プリンター
	連絡室運営費	10,000	-	
	郵便振替手数料	60,000	48,282	郵便振替手数料
	その他	-	27,822	大学ショートステイプログラム補助等
	運営費小計(b)	120,000	108,139	
予備費	(c)	-	-	
支出の部の合計(B)	(a)+(b)+(c)	3,050,000	2,077,283	
次年度繰越金 (A)-(B)	(A)-(B)	5,015,288	5,637,489	

上記の通り、相違ございません。

令和2年6月12日

監事 山口健一 (印)

4. 事業計画・予算

4-1 令和2年度事業計画

新型コロナウイルスの感染拡大により様々な社会活動が制約されており、制限緩和の見通しが不確実な状況にあつて、本年度の事業計画を以下のような原則で策定します。

- (1) 留学生等との接触を伴う事業に関しては、前期はすべて取り止めます。後期は事態が収束するという希望的予測に基づいて、可能な事業を計画します。
- (2) コロナ感染下での留学生の生活困窮、留学継続の困難という実態に対応した支援策を実施します。
- (3) 今期計画はあくまでも暫定的なものであり、状況の変化に対応して必要な変更、補足を加えます。

*詳しくは11ページをご覧ください。

A. 生活支援事業

1. 給付事業

(1)生活用品のバザー

今年度は実施しない。

(2)学会出席旅費の助成金

合計 15 万円を国際学会参加者に支給する。

(3)緊急生活支援金（仮称）

合計 100 万円を適切な方法で早期に支給する

2. 相談事業

留学生の住居・学費・法律等の身近な相談に応じる

B. 友好親善事業

1. 国際交流事業

「国際交流の夕べ」（12月4日ごろ 大学と共催）

2. 会員等の協力による友好親善事業

(1) ふじのくに留学生ツアー（2月）

(2)地域の文化的行事への参加

*随時対応する。

C. 日本理解事業

1. 伝統文化の見学

(1)江戸文化体験ツアー（川越散策） 10月予定

(2)鎌倉見学旅行 鎌倉の文化遺産と自然の見学 11月以降予定

(3)文楽鑑賞教室 Discover BUNRAKU 国立劇場 12月14日 19:00～

(4)地元の伝統的・文化的行事の情報提供

2. 伝統文化の体験

1)「伝統文化体験教室」（「国際交流の夕べ」と一体）12月4日ごろ

2)日本語広場を週2回開催する

3)「伝統文化指導教室」開催

茶道・華道・書道・囲碁(毎週)

3. 日本の「今」を知る

*工場見学など 12月予定

D. 国際理解事業

特に計画しないが、要請があれば検討する。

E. 広報その他の事業

1. 「支援の会 会報」を年3回刊行（第64～66号）

2. コロナ時代に対応したインターネット広報媒体の拡充と活用

3. 会員拡大および財政基盤改善のための諸活動

4. コロナ感染拡大下での留学生生活の実情に関する情報収集

(1) 留学生による報告文の募集

(6月～12月)

(2) 生活実態アンケート調査の実施

(6～7月に回収、分析)

5. 幹事会の開催（原則毎月）

4-2 令和2年度予算

B. 令和2年度（令和2年4月～令和3年3月）一般会計予算

東京外国語大学留学生支援の会 令和2年度一般会計予算

項目	2年度予算額	摘要
	5,637,469	
一般会員	1,569,000	3,000円×151名 12,000円×93名
協賛会員	20,000	20,000円×1名
一般	200,000	
バザー等	0	バザー収益・行事参加費
利息	10	受取利息
	7,426,479	

項目	2年度予算額	摘要
国際交流行事共催費	360,000	伝統文化体験費・交流会費(大学との共催)
史跡見学費	120,000	鎌倉見学
日本文化見学費	190,000	歌舞伎見学・東京下町ツアー・ふじの国ツアー
日本先端技術見学費	150,000	先端技術工場見学
日本文化体験費	70,000	華道・書道・茶道・日本語広場（秋学期のみ）
日本人学生との交流会費	0	茶・菓子・昼食等
その他の交流活動費	0	国際理解教育交通費・謝金
緊急生活支援金(仮称)	1,000,000	緊急生活支援金(仮称)
教育研究支援金	150,000	国際学会発表出席旅費補助金
連絡室協力謝金	150,000	留学生連絡室協力謝金(秋学期のみ)
通信費	270,000	会報発送費等
印刷費	230,000	会報印刷費等
活動費小計(a)	2,690,000	
消耗品費	30,000	プリンターインク代・コピー用紙代
備品費	20,000	
連絡室運営費	10,000	
郵便振替手数料	50,000	
その他	30,000	
運営費小計(b)	140,000	
(a)+(b)	2,830,000	
(A)-(B)	4,596,479	

* 次年度繰越分には、会費の前受分（4年分をお支払いいただいた方の分）が含まれています。

5. 今年度の留学生支援の会の

活動について

東京外国語大学留学生支援の会幹事より

留学生支援の会においても、これまでにない対応を求められています。

留学生支援の会のあり方を考えた際、文字どおり、今困窮している留学生をどのように支援するかということが喫緊の課題と考えて幹事会で検討を重ね、以下のような取り組みを行うこととしました。会員の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

○新型コロナウイルス感染拡大下での留学生の学び継続を支援する緊急生活支援金支給事業について

新型コロナウイルス感染の拡大のもとで、留学生たちが大きな困難に直面しているにもかかわらず、支援の会が従来実施していた支援、交流活動はほぼすべて「自粛」せざるを得ない状態になりました。幹事会では、メールでの意見交換を通じて、いまやれること、いま必要なことを模索しました。

様々なアイデアが出ましたが、最後に残ったのが、生活困窮状態にある留学生への経済的支援です。ちょうど政府が困窮学生に対する10万円の『学生支援緊急給付金』を発表し、留学生に対して特別な成績条件を付加したことが「差別」だという批判が殺到した時期でした。そこで、政府の給付金から外れた留学生に10万円を支給することにしました。当初は5名に支給する案でしたが、少しでも多くにと、会の予算が許す上限といえる100万円を支出することで10名に増やしました。

とはいえ、600名以上の留学生から10名をどのように選べばよいか。その方法について学長を

はじめ大学側と相談した結果、今回は、政府や大学の公的生活支援策の枠外に置かれ、コロナ禍による経済的打撃が最も大きいと想定される私費研究留学生40名ほどに対象を絞り、そのうちの希望申請者から生活困窮度の高い10名を選んで支給することにしました。選考作業は、公平、公正を確保するために、大学教職員の参加、協力を得た委員会を設置して行い、7月中には支給する予定です。

給付金事業の原資はすべて皆様からの会費や寄付から成り立っています。そこに込められた厚い思いを留学生に届ける事業として取り組んで参ります。
(谷会長)

○新型コロナウイルス感染拡大下での留学生支援の会の活動について

新型コロナウイルスに対し発令された緊急事態宣言、その後に発令された東京アラートも解除となり、少しずつ収束の方向に向かっているようですが、依然予断を許さない状況です。会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

この状況下、大学では4月に大勢の留学生が来日できないという事態に陥りました。そして大学での授業も7月の夏休み前まではオンライン授業が実施されており、校内では時折、寮に住んでいる留学生や大学の職員らしき人の姿を見かけるだけで、静まりかえっているのが現在の状況です。

食堂や生協も時間を短縮して、最近再開したばかりです。私たち留学生支援の会も、この状況下、月一度のオンラインによる幹事会を除いては現在、支援の会連絡室を閉じ活動を休止しています。

コロナ禍の影響は2月のふじのくにツアーの時には、すでに出始めており、感染を懸念した学生が申込みをキャンセルしたり、受け入れるホストファミリーからも最初の予定より少ない人数にしてほしいとの申し入れがあったりする

中、何とか参加者を沼津に送り出すことができました。

参加した留学生は昨年より少なかったものの、皆大変に満足して帰って参りました。

3月に予定していた鎌倉ツアーは、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、中止と致しました。そして、今年度の下記計画も参加者に対し、衛生面での配慮の難しさや、スタッフの中には高齢者も多いことなども考え、残念ながら中止の決定をしました。

4月の新入学留学生向けバザー

6月に予定の歌舞伎教室

9月の新入学留学生向けバザー

(6月には計画決定を必要とするため)

11月の外語祭一般向けバザー

(6月には計画決定を必要とするため)

なお、11月に国立劇場での文楽教室を予定しておりますが、実施できるかは状況次第になります。

現在、今期前半に活動できなかったことを踏まえ、大変な思いをしている留学生に僅かですが、生活資金の援助を計画しております。

今後の見通しとしては、10月秋学期からの活動再開を考えております。再開できました節には、今まで同様に留学生の為にお力添えをお願い申し上げます。(井上幹事長)

バザー中止のお知らせ

今年度、9月の留学生向けバザー及び11月の外語祭一般向けバザーを中止することになりました。4月に引き続き新型コロナウイルス感染警戒下ではバザーに来ていただく皆様への衛生面での対応が難しいこと、また、準備するボランティアスタッフの年齢を考えますと、残念ながら、中止することが妥当と考えます。

バザーに向けて品物を準備くださった会員の皆様には本当に申し訳なく、心よりお詫びを申し上げます。

一日も早い事態の収束とバザーのできる環境に戻

ることを願っております。

その節は、以前同様、会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

6. ホームステイ報告

活動報告：「ふじのくに」ツアー

(2020年2月22～24日)

「支援の会」の活動の中でも毎年恒例の人気番組になっている「ふじ(富士)のくに」ツアーを今年も実施しました。静岡県沼津市の臨済宗長興寺の住職・松下宗柏さん(東外大英米語科卒)が20年ほど前から企画・主催しているイベントで、「2.23(ふじさん)」の語呂合わせで、外大留学生を2泊3日のホームステイに招いてくれています。例年15人の参加枠ですぐに定員いっぱいになるのですが、今回はコロナ騒ぎのために辞退した人もいて、参加者は9人でした。

今回も初日の長興寺での「茶道」体験には地元の静岡新聞、沼津朝日新聞が取材に来て、後日、写真入りで掲載してくれました。

なお、引率した勝又が静岡新聞社から4～6月の夕刊1面のコラム「窓辺」(1回600字、計13回連載)に毎週木曜日に寄稿するよう依頼されており、4月2日付けの第1回に「富士の国」ツアーのことを書いたので、それを合わせて添付します。

参加者のうち7人が感想文を寄せてくれたので、以下に全文を掲載します。(勝又副会長)

グエン・ティ・トニョン(ベトナム)

私はいい天気朝、東京の寮から、たまに富士山を見ました。遠いところから見ても、富士山がとてもきれいです。それで、日本にいるうち、ぜひ、富士山に登りたいと思っていました。ちょうど支援会の「富士の国留学生ツアー」を見て、すぐ申し込みました。このツアーに参加できて、本

当に良かったです。素晴らしい富士山が近くに見えるだけではなく、茶道や座禅や餅つきなど色々体験ができるし、世界各国の友達ができるし、それに日本人の家族生活も実際に体験しました。すごく楽しかったです。

3日間で、お坊さんと勝又先生が柿田川公園や朝霧高原や浅間大社や白糸の滝などのとてもきれいで、歴史が深いところに連れてくれ、何でもちゃんと説明してくれました。思いやりで、熱心で、優しく、ベストなツアーガイドだと思います。本当に有難いです。

そのうえ、ホストファミリーと一緒に時間もとても楽しかったです。短い時間の2泊ですが、ぜったい忘れない記憶です。パパさんとママさんはすごく優しく自分で美味しいご飯を作ってくれ、一緒に海へ行ってくれました。そして、ギターが好きな私をギターをよく弾く店長の居酒屋に連れていってくれました。そこで、パパさんとママさんと初めて会ったお客さんと話したり、歌ったり、ギターと電子ギターと三味線との合奏を楽しみました。皆はお店の客さんだけなのに親しくて話し合ったり、私のために、音楽会をしてくれて、私はとてもびっくりして、感動しました。もし、自分で富士山を旅行したら、そのように面白い体験ができないはずだと思います。

今回のツアーのおかげで、いい勉強になって、いい思い出ができました。それで満足しました。本当にありがとうございました。




イリナ・プレンドロヴィッチ (ウクライナ)

何か不思議なイベントに参加できる気持ちがありました。富士山に向かって歩きながら、わくわくしてました。毎日新しい経験をもらうことができました。

おしょうさんにいつもお世話になりました。一緒にお茶を飲んだり、ご飯を食べたり、案内してもらいました。茶道に参加できたり、ゼンの練習をしました。ゼンを練習している間、水の下みたいな気持ちがありました。ゼンは本当に素晴らしいと思います。

6ヶ月家族にあえなかったのですが、鈴木家族は3日間で本当の家族みたいになりました。一緒に楽しむ時間があって、美味しい食べ物を食べて、ゲームもしました。

天気はよかったです。晴れだったので、富士

山  がはっきり見えました。海で船にのりマリンパークまで行きました。とても感動しました。

日本の心や文化がもっと分かりました。富士は日本一の山!



ナダ・サラ (エジプト)

先週、「富士山に向かって歩こう」に参加しました。お寺に泊まり、色々なところに行きました。お寺に泊まるのは初めてで、とても珍しい

経験だと思うので、お寺に泊まれて良かったとおもいます。その三日間で色々なところに行って、東京と全然違う雰囲気を感じました。静岡県の自然やみんなさんの優しさやおもてなしを感じました。このツアーで一番好きなのはやはり富士山を見ることができたことです。私たちはとても運が良く、天気良かったので、富士山がはっきり見えた。

そして、おしょうさんから、日本の宗教のことを聞いて、日本をもっとわかるようになったと思う。この三日間は本当に私の記憶にずっと残ると思う。この三日間でできた友達や知識は永遠に記憶に残る。



サンデイ・アティフ (エジプト)

富士山ツアーに参加できて本当によかったです。それはいろいろなことを初めてしたからです。例えば、寺に泊まることや富士山を近く見ることや茶道をすることです。また、食べ物が美味しく、このツアーの日程は本当に良かったです。人も優しくかったです。特に、和尚さんと奥様が本当に優しくて、心が広いです。また、私の先生は約20年前に私が泊まったお寺(長興寺)にも泊まりました。幸いに長興寺の松下和尚さんはまだ先生のことを覚えています。20年経ったのにまだ覚えているのはすごいと思います。和尚さんは先生がいたときの話もされました。それに、ツアーの後和尚さんは先生の写真と和尚さんのエッセイ

を送っていただきました。来年日本に来られたら、ぜひもう一度参加します。

ランダ・レダ・ハッサン (エジプト)

私は日本に来る前に、日本と言えば富士山です。このツアーは楽しくて、忘れない経験でした。今まで日本全部好きですが、一番好きなのは静岡県です。静かで、自然が素晴らしくて、建物は古くて、人達もやさしいです。このツアーでたくさん場所へ見に行きました。天気もよかったので、素晴らしかった景色を見ることができて、感動しました。

お寺にホームステイとして泊まりました。とても楽しかったです。朝早く松下おしょうさんと長興寺という泊まった寺の近くを見学しました。仏教と神道についてたくさん勉強になりました。夜、古い居酒屋へ行って、たくさん話をして、料理も美味しかったです。たくさん思い出を作って、よかったです。



イレフ・メフルジイ (チュニジア)

富士山を訪れ、日本の文化のさまざまな側面を体験できたことをとてもうれしく思いました。素敵なお土産をたくさん買って、今では新しい友達ができました。静岡は日本で最も美しい都市であり、静岡の人々は最も友好的な人々であったことを常に覚えています。最後に、勝又先生、おしょうさん、さぎはらさん(おかあさん)はと

でも親切で、愛想がよく、お世話になったことに感謝します。ここ数ヶ月は私にとってとても大変で、とても寂しかったし、友達もいませんでした。第一に、実際には内向的だからです。第二に、私はまだ日本語の初心者であり、この世界のほとんどの人々に歓迎されていない宗教的アイデンティティを持っているからです。それで、最後の数日間をととても美しくしてくれて、私を受け入れてくれてありがとう。

マーティン・ショーブス (ドイツ)

外語大に斡旋された富士山への旅行は大いに楽しかった。私たちは2月22日から24日まで旅行に参加した。日本の一番綺麗な山とその周辺を見ることはとても新鮮で楽しいものであった。着いた日、雨が降っており、富士山は曇りに隠れていた。その後、私たちはホストファミリーと合流し、茶道を教わった。お坊さんが座禅の方法を教わり、実践し、禅の極意に少し近づくことができたと考える。それからそれぞれのホストファミリーと一緒に帰り手厚い歓迎を受けた。

23日は空が澄んでおり、富士山がはっきり見えた。富士ミルクランドで降り、美味しいアイスクリームを食べたり、写真を撮ったり、イベントのためにきた可愛い犬を見たりした後で富士山周辺の散歩をし、自然を堪能した。そのあと、バスで昼ご飯を食べにいった。昼食を食べる前に、優しい「鬼さん」と餅を作った。そうしてから、白糸の滝や富士山世界遺産センターを見物した。

最後の日、帰る前に沼津御用邸記念公園へ行って、照江寺に参り異文化を体験した。名所めぐりの最後として淡島マリンパークでペンギンや海豹などを見た。

素晴らしい友達を作れたり、良い観光プランで楽しい旅に恵まれて良かった。



窓辺

小学生の時、駿東郡深良(現・裾野市)に住んでいた。私の「原風景」には常に富士山があった。それから半世紀、母校の東京外国語大学の「留学生支援の会」副会長として、2月22日、「富士の国」ツアーで留学生9人を引率して富士山の麓を歩いた。ツアーは沼津市の臨濟宗長興寺の松下宗柏住職(東京外大英米科の同級生)が企画した恒例行事で、もう

20年になる。毎年1月29日(富士山の日)に朝霧高原で開催するウオーキング・ラリーに参加してきた。今年はコロナ騒ぎでラリーは中止になったが、留学生たち(ベトナム、エジプト、チュニジア、ウクライナ、ドイツ、中国など)は1時間以上、雲一つない快晴で頂上までくつきり見える霊峰を間近に仰ぎながら、バスの中で住職に習ったばかりの「富士の山」を合唱して喜んでいた。その後、白糸の滝、富士宮市の浅間神社を巡って、

世界遺産センター4階の展望台からまさに絶景の富士の雄姿に改めて歓声を上げていた。

留学生たちは沼津市内のホストファミリーの家族とすぐに打ち解けて話し込み、中には近くの居酒屋に案内され、居合わせたお客たちと一緒に歌うのを楽しんだ学生もいた。彼らの感想文は「富士山は最高」「静岡は日本で最も美しいところだ」「静岡の人々は最も優しく友好的で感激した」との賛辞で埋まった。留学して1年以内の日本体験の「原風景」に「富士の国」が焼き付いたように

勝又 美智雄

* 静岡新聞に掲載されたコラムです。

7. 新型コロナウイルス感染拡大に伴う留学生の状況(緊急寄稿)

今年2月頃から5月にかけて、新型コロナウイルスの世界的流行という、思ってもみなかった状況となりました。留学生の生活にも大きな影を落としています。

今回、東京外国語大学に留学している学生さんたちの状況を会員の皆様にお知らせすべく、大学の先生及び留学生の皆様へ緊急寄稿をいただきました。

外語大で学ぶ留学生の概要

谷 和明（会長）

現在の事態の下で一体どんな種類の留学生が何人外語大で学んでいるのか。それを示したのが下表です。

在籍留学生の総数は 666 名と、昨年と比較して 2 割近い減少で、渡航制限の影響が如実にみられます。注意したいのは、在籍者のなかには、入学したが来日できないでいる学生、一時帰国や外国旅行で出国して戻れないでいる学生も含まれることです。それらを除くと 600 名以下になるかもしれません。

2020 年度東京外国語大学留学生数(5 月 1 日現在)

区分	総数	課程別内訳		国費・私費内訳		参考	
		学部	大学院	国費	私費	2019 年度人数	2020 / 2019
正規生	426	174	252	114	312	432 (学部 187、大学院 245)	98.6%
研究生	87	82	5	21	66	116	75.0%
交換留学生	129	113	16		129	217	59.4%
その他	24	24		24		31	77.4%
計	666	393	273	159	507	796	83.7%

減少率は留学生の種別によって大きく異なり、正規生は昨年とほぼ同数といえるのに対し、交換

留学生は半減に近い状況です。この差異の主な理由は、①留学期間の長短の差および②留学時期変更の可能性の有無にあります。正規生は長期留学なので前年度からの継続在籍者が大部分であり、かつ入学辞退者も生じにくいので、減少しなかった。他方、交換留学生は短期なので継続在籍者とほぼ同数の新規生を迎えるはずだったのが、ほぼ全員が留学を延期、中止した（できた）ので、半減したわけです。

ここで、正規生、研究生などの区別について簡単に説明しておきます。

正規生とは、学士、修士、博士を目指して入学し、定められた教育課程を履修している留学生です。学部は 4 年間、大学院だと前期 2 年間、後期 3 年間以上の長期留学です。大学院の比率が高いのも特徴です。

研究生とは、特定のテーマを深めるために指導教官の下で 1～2 年間の学習、研究を行う非正規学生です。単位取得や卒業資格はありません。学部課程が大部分という特徴がありますが、それは大卒者が大学院進学準備期間として在籍する事例が多いからです。

交換留学生とは、本学と交流協定を結んでいる外国の大学の学生を本学学生の派遣留学と交換のかたちで半年～1 年間受け入れる短期留学生です。そのために特別に組織された「国際教育プログラム (ISEP)」を履修しているので ISEP 生とも呼ばれます。授業料は協定により免除されます。出身国が多様で大学 2～3 年生段階の比較的若い学生が多いのも特徴です。

表で「その他」に分類されているのは、日本政府（文部科学省）奨学金留学生のうち「日本語・日本文化研修留学生」で、秋学期から 1 年間の短期留学生です。

実は、これ以外にも、本学の留学生日本語教育センター (JLC) には、日本政府奨学金で学ぶ「国費学部留学生」（毎年 50～60 名）、「国費研究留学生」（毎年 20～30 名）、「国費教員研修留学生」（毎年数名）が在籍しています。だから、昨年の在籍留学生数は実は 900 名近かったこととなります。

さらに超短期の語学、体験プログラムなどで学ぶ外国人学生もいます。

このように多様な外国人留学生在が学んでいるわけですが、政府や大学の留學生支援策には正規生に重点が置かれる傾向があります。正規留學生に対し日本人正規學生と同等の条件を保證することに注力するのは、制度的には当然のことかもしれません。けれどもその反面で、非正規生である研究生や交換留學生が公的な支援策の対象外となるのは残念なことです。私たち支援の会では、あらゆる種類の留學生に対するわけへだてのない支援をこころがけていきたいと思ひます。

大学の授業計画と留學生の現状

岡田昭人（副会長）

大学の授業計画

東京外国語大学は緊急事態宣言解除後も、新型コロナウイルスの再拡大の危険性を考慮し、繼續してオンラインによる授業を実施している。

現在、教職員は基本的に在宅勤務を續けており、通常勤務している人員数は限られている。春学期は7月17日の週までで、授業、レポート、成績評価、教授会や各種委員会など学務に関することはすべてオンラインである。公共施設は、6月8日（月）から附属図書館への入館を再開、また大学院生室の一部が使用可能となっている。

留學生の現状

4月以降、留學生は健康状態におうじて報告することが求められている。国外にいる留學生は未だに来日の目途がたっていない。海外協定校との相互交換留学による學生の派遣・受け入れは中止やペンディングになっている。

緊急事態宣言後にアルバイトを再開する留學生もみられる。大学では新年度開始から、学費の減免や支払い期間の弾力化など留學生を対象とした経済的支援を行っている。また大学HPで、「学びの繼續」のための国による『學生支援緊急給付金』制度のお知らせなど国による経済支

援策の情報提供をしている。

今後の予定

夏学期後半の集中講義は、引き続き、オンラインでの実施が検討されている。ただし、教職科目など、対面で実施する必要のある授業については、状況への対応によって、来校での実施となる。また、授業のリストやスケジュールは6月中旬に発表される。秋学期以降は、授業やオンラインと対面の混合型での実施も検討されている。

コロナ禍の日本で思うこと

ルステモヴァ アクトルクン

私はアクトルクンと申します。2014年9月から2015年8月まで東京外国語大学に交換留學生で在籍していました。当時、カザフスタンの大学の修士課程2年生で、ISEPプログラムでカザフスタンの大学から交換留学で東京外国語大学に来た最初の學生でした。現在カザフスタンの博士課程3年生で、カザフの大学のプログラムで日本に短期滞在で来ています。カザフスタンの大学のルール上では指導教員が2人いて、私の場合、その一人が東外大の岡田教授であります。日本には先生の指導の下で研究を續ける目的で来ています。

当初、約3か月間滞在の予定で2月上旬に来日しましたが、コロナの影響でカザフスタンと日本間の直行便がキャンセルになってしまい、国へ帰れない状態になっています。現在カザフスタンで感染者数が増えているため、直行便がいつ飛ぶようになるのかが分かりません。

コロナで一番困っていることは図書館を使えないという事です。もちろんネット上でも様々な論文や情報が手に入りますが、中に有料の物やアクセスがない論文もあります。大学の図書館だとアクセスが自宅より幅広いです。二つ目に困っているのが、やっぱり人々と会えない、意見交換などがあまりできないという事です。もちろんZoomなどテレワークができるという事である程

度指導教員の先生と研究の話はできます。しかし、私は他の院生たちの研究や発表を見るのを楽しみにしていました。皆さんとの経験や意見などのシェアをしたり、研究方法などをお互い教え合えれば嬉しいなあと思っていました。尚、私の研究テーマの専門家の方々とお会いして話し合う事が出来ればいいなあと思っていましたが、コロナの影響で東京アラートなどが解除されても他の都市や大学にいらっしゃる先生方の所に行くのが難しいと思われます。しかし、大学なども閉まっているので（オンラインになっているので）、行っても会える可能性が低いと思います。やっぱり、いつ、どこで感染してしまうのかが分からないので、移動はやめたほうが良いと考えられます。

更に、私は日本政府の健康保険に入っていないため、感染してしまったら医療はどうなるかと言う心配もあるため、出来るだけ気を付けるようにしています。

この3か月間自費で生活していますが、ちょっとしたバイトでもできればよかったなあと思います。現在、日本の方や知り合いの皆さまにお世話になっていて、日常生活でそんなに困っていることはありませんが、やっぱり周りに迷惑をかけたくないと言う気持ちもあります。

コロナで石油の値段が非常に安くなったのをきっかけに、カザフスタンが経済危機に入り、ドル高（現地通貨が安く）になっています。これは、テング（カザフの通貨）に対する円のレートにも影響を与え、その結果円高になっているため、日本での生活費がコロナ以前の状態と比べると高くなっています。

日本で友達や仲の良い方がいらっしゃるけど、日本にいても皆さんと会えないという事がとても残念に思います。一番大切なのが実際に友人や仲の良い人たちと会ったり、顔を見ながら話したりすることが贅沢だという事が分かってきたような気がします。日本は自然が綺麗で、日本で旅行したり、海や山、公園などを楽しむのがとても好きですが、コロナの影響でそれもあまりできなくなっています。

もちろんコロナで人それぞれ困っていることが沢山あると思いますが、一方コロナだったからこそ研究に集中できたと言うポジティブな点もあります。自粛で外に出なかったし、提出締め切りもあったので、この2か月間殆ど外に出ずに、論文を書く事ができました。どんなことでもよい点と悪い点があるかと思いますが、両方考えながら行動するのがベストのように思われます。

新型コロナウイルスの影響

KIM YONGHUN(キムヨンフン)

数ヶ月前、ニュースなどで新型コロナウイルスを初めて知った時、なるべく早く治まってほしいという気持ちとは異なり、今も感染者が毎日発生している状況です。全世界の人々の生活を変化させた新型コロナウイルスは、私の日本留学生活にも様々な影響を及ぼすようになりました。

一番目の変化といえは、現在私は修士課程2年生であり、論文を作成するために様々な準備をしている状況ですが、新型コロナウイルスの影響で学校に行けなくなり、図書館を利用することもできない状況に置かれていることです。そして論文作成のため様々なアンケート調査が必要ですが、緊急事態宣言により全てをネット上で進むことになって様々な困難を感じており、これからどのような仕方で研究すべきなのかとても心配です。

他の変化とは、今まで日本で韓国語を教える来ましたが、新型コロナウイルスの影響により全ての授業が中止になったことです。勿論 ZOOM などのネットミーティングを通して授業を行うことは可能ですが、教室で学生と顔を合わせながら授業をすることとは大きな違いがあると思います。

次は私の趣味生活に大きな変化が生まれました。今まで1週間5日ほど新宿にあるダンススクールで「K-POP ダンスを」習いましたが、ダンススクールが臨時休業になって学校に行けなくなり、楽しく踊りながら汗をかく喜びを以前のように感じられなくなったのはとても悲しいと思って

います。

四つ目の変化は、韓国に帰国することが難しくなったことです。たまに韓国で兄の仕事を手伝うために帰国しましたが、新型コロナウイルス関連の両国間の入国政策により、出国及び入国を自由にするのが難しくなりました。子供の時から日本という国が大好きで、日本に関するすべてのことが好きな私としては、両国間の民間交流が断絶してしまったような感じでとても悲しい気持ちです。できるだけ早く、肯定的な政策の変化が起こることを心から願っています。

最後に一番悲しいと思う変化といえば、やはり学校で友達に会えなくなったことです。全ての始まりを表す4月に学校へ行っても友達に会うことができず、一緒に食事をしながら楽しく話しかうこともできないし、学校生活の花といえるサークル活動などもできなくなりました。今までの元気で活気な学校の姿が見えなくなったようでとても悲しいと思うし、私には今年が東京外国語大学での最後の年なので、以前の学校の様子があまりにも懐かしく感じています。できるだけ早く元の感じに戻ってほしいと思います。

このような新型コロナウイルスの影響で様々な困難な状況に置かれているのは事実であるのですが、「マイケル・ジャクソン」の歌の歌詞のように世界中の人々が力を合わせて一日でも早く、「感染者数0」というニュースがみられることを心より願います。

新型コロナウイルス感染拡大と私の留学生活 グエンティトウイニョン

私はベトナム出身のグエンティトウイニョンです。交換留学として、9月から日本に来ました。大学に入って以来、ずっと、日本で留学する夢を抱いていました。それで、日本に来て、文化体験や学校で学べる知識などをすごく楽しみにしていました。

秋学期は、世界様々な国からの留学生と一緒に日本語や日本文化を勉強したり、旅行したりしま

した。そして、留学生の支援会のおかげで、茶道や生け花といった色々な日本伝統的な文化や日本人の家族の日常生活を体験できました。その時間は私にとって、いつまでも忘れないほど、楽しく貴重な時間です。

在日残った半年も楽しく過ごしたいですが、新型コロナウイルスの感染拡大ので、突然、全部変わってしまいました。日本の色々なところの生活、習慣や自然の美しさを知りたいので、春休みになると、関西や東京の周り地方などを観光計画を立てました。それに、日本に住んでいる友達を訪れたいと思っていました。けれども、もうキャンセルになってしまいました。残念でした。

一番残念なのは、春学期はもう学校に行けなくて、授業は全部オンラインですることになりました。今学期、日本人のことをもっと理解したいので、日本人と一緒に学ぶ科目をたくさん登録すると思っていました。ですが、オンライン授業なので、なかなかコミュニケーションができません。それ以外、友達に会えないし、部活に参加できません。いつも、部屋で一人で、パソコンと一緒に勉強して、寂しいです。

しかし、今回の疫病ので、自分の健康にもっと大切にします。適度に食べたり飲んだりします。前に、やったことがないジョギングを毎朝やっています。ジョギングするとき、公園での雑草や学校の並木などの周りの平易なことを気になって、皆は変わって来て、長い冬眠の後に起きて、逞しく生きています。毎日、起きて、自分はまだ元気で、このようなきれいな景色を見て、それだけで幸せと感じます。そして、日本は世の中に安心安全な国とよく言われているので、激動のない日本で暮らしたら、本当にいいですが、特別なことは何にもないと言えます。今回、楽観的に考えれば、日本をもっと理解できるためのチャンスだと思います。困難のとき、日本はどのように対応するか、日本社会はどうなるかということはいつでも見えることではないでしょうか。新型コロナウイルスに対応の方は、ベトナムに比べて、全く違います。ベトナムは自分が弱くて、医療設備が貧

しいのが分かっているので、できるだけ、早く感染拡大防止措置を厳しくやっていました。例えば、国内で感染者がいるのを認証したら、すぐ、患者を集中治療室に入れて、患者に接触した人を全部隔離させました。16人が感染確認したとき、全国の学校は休校になりました。そして、疫病のピーク時間の3月の終わりから国際線経営は中止することになって、海外から帰った人は全員別のところで隔離させました。各地方間の移動も制限されていました。それに、ほとんどの店は休業しないといけなかったです。外出のときマスクをするのは強制で、しないと、罰金される場合もあります。でも、政府の厳しい措置のおかげで、今まで、ベトナムには270過ぎ人だけ感染されました（その中で、223人もう治りました）。それは、ほんとはよかったですけど、たぶん、そのとき、ベトナムに住んでいた人はすごく心配して、困っていました。たとえば、孤立したエリアが足りないので、私の大学の寮は孤立したエリアになって、学生が皆寮を出ないといけません。経済も大きな影響を与えた。回復にとっても大変です。その一方、日本はまだまだ落ち着いていると感じます。数千人が感染した後、政府は緊急事態宣言を出しました。外出自粛を住民に願っています。政府は住民に信頼があって、自主意識を惜しまれそうです。感染者がますます増えてきましたが、住民は自由に移動したりして、ベトナムより、困ったことが少ないと思います。

国によって、自分の状況に応じて、実行する措置が違います。政府のガイドを従って、自分の健康と周りの人の健康を大切に気を付けたら、大丈夫だと思います。どうしても、疫病が早く終わってほしいです。

新型コロナウイルス感染症と留学生

東京外国語大学大学院博士課程
徐明煥(韓国)

新型コロナウイルス感染症の影響で、世界で約836万人が感染し44.6万人以上の死亡者が

出ている。このような未曾有の事態は日本の社会や教育にも大きい影響を与えた。現在大学はオンライン方式(オンデマンド方式やリアルタイム方式)で授業を行っているが、そもそも3月9日から日本政府は海外からの入国禁止装置をとって、多くの留学生は日本に入国することが出来なかった。日本国内に残っていた留学生たちも大学の施設使用禁止によって図書館や研究室などは立ち入り禁止となり、自分の部屋に閉じ込められすべてをオンライン授業に頼るしかなかった。その中でもっとも大変なことは、緊急事態宣言による営業自粛要請によって多くの留学生はバイト先から収入を得ることが出来なかった。私の場合でも3月から6月までの収入は0円だった。ようやく今月「緊急支援給付金」を申請することは出来たが、多くの留学生は学費と生活費に困っていて学業を諦めたり、休学を選んだ学生もいた。これは、留学生だけではなく日本人学生も同じ状況である。

このように深刻な状況に置かれている学生たちのために、政府は「学生支援緊急給付金-学びの継続」を設け、学生たちの支援を始めた。しかし、留学生だけは、成績順位上位3%とか、出席率8割以上などの条件が付けられている。留学生は日本人学生と同じ学費を払って大学に通っていても一部の人しか給付金が貰えないということで多くの留学生は失望していた。結局申請しても貰えない可能性が高いという認識と申請書類の複雑さなどで「学生支援緊急給付金-学びの継続」の申請を諦めた学生も多くいた。さらに、「学生支援緊急給付金」という大事な情報が学生たちにもうまく届いてなく、申請期間に間に合わなかった学生もいて回りの留学生たちに聞いてみても申請出来た留学生は実際に多くなかった。

新型コロナウイルス感染症禍に「学生支援緊急給付金-学びの継続」の支援はとても嬉しいことである。しかし、学びの継続の支援は、生活困窮の学生たちのためではないだろうか？生活困窮の学生が多い留学生だけに成績上位などの条件付きの緊急支援は本来の意味が失われた緊急支

援ではないかと思う。新型コロナウイルス感染症禍に於いても必ず守られべきものは教育の機会均等である。日本人学生も留学生も同じである。生活困窮である学生たちも教育を受けられる権利がある。それが、本来の「学びの継続」ではないだろうか。

近況報告

胡 娜 (コ ナ)

皆さん、お元気ですか。私は、元気です。

紫陽花が綺麗に咲く季節ではありますが、コロナの影響で生活のリズムが乱れていることかと思えます。毎日の夕方、ウェブサイトで東京の感染者数を確認するのが日課になりました。最近の一週間、東京の感染者数が徐々に減少しつつある中、EJU 試験（日本留学試験。外国人留学生として、日本の大学（学部）等に入学を希望する者について、日本の大学等で必要とする日本語力及び基礎学力の評価を行うことを目的に実施する試験です）が中止されました。ネット上では日本への留学を目指している学生からの悲鳴が上がっています。また、現在日本で留学している留学生も不安や困難に直面しているかと思えますが、今回のレポートは、自分の状況また回りの留学生の状況について皆さんに報告したいと思えます。

東京外大は4月20日からオンライン授業が開始されました。全世界に散在している来日できない留学生にとっては、オンライン授業の展開は本当にありがたいことでしょう。その一方、ゼミのような議論が多い授業では、クラスメイトの反応が遅いとか、沈黙の時間が多いとかなかなか慣れない部分もあります。授業がない時間は、基本的に自分の部屋で先行研究を読んだり、論文を書いたりしています。留学生同士また指導教官とまめに連絡を取り、お互いに現状を報告したりしています。文系の学生にとって、現在一番困っていることは資料収集でしょう。例えば、みなさんがよく利用している国立国会図書館は現時点では閉館になっていますね。さらに、調査現場にアクセ

スできないため、録音、録画、インタビューなどのデータ収集もできなくなりました。理系の学生は、入校禁止に伴い、実験室の利用もできなくなったでしょう。非日常の中でどのように自分の日常活動をスケジュールすればいいのか、留学生にとっては一つのチャレンジになります。

人間は国籍がありますが、ウイルスは国籍がないです。中国が新型コロナウイルスと一生懸命戦っていた2月の時、ヨーロッパでは、マスクを着用している中国人、アジア人が暴力をふるわれたニュースがしばしば見られました。正直に、このようなニュースを見たら、悲しく思います。留学生として、身の安全を心配するようになります。幸い、日本人にはマスクをつける習慣があるので、安心して道を歩けます。未来のことはどうなるか誰にもわかりませんが、今回のような世界中に広げる公共危機が再現したら、私たちが今回より適切に対応できるかどうかを考えなければなりません。地球は一つの村で、お互いがお互いの一部です。防疫の経験と重要な情報をすぐに共有し、他の国々が遠回りしないよう対応すべきだと思います。

新型肺炎の終息を祈り、みなさんとの再会を楽しみにしています。

コロナで感じたこと

LI YUSHAN (リ ウサン)

初めまして、東京外国語大学から卒業した留学生であり、コロナで感じたことについて述べさせていただきます。

はじめのところで、自分の状況を少し述べたいと思う。もともと三月末の頃、帰国しようと考えたが、コロナの影響で、チケットがキャンセルになった。母国で就職ができたが、帰国できなかったため、就職先と色々話し合い、四月からずっとオンラインで仕事をしている。五月中旬くらいもう一回予約チケットもまたキャンセルになった。それで、結局予定より、日本で生活する期間は長く延ばすことになった。

予定より長く住むことになったため、オンラインの仕事はもちろん、生活にも色々不便だと感じている。以下は感じたことを二つ書かせていただきたいと思う。

まず、留学生にとって、住むところは一番重要である。しかし、コロナの影響で、予定通り帰国できない留学生にとって、新しい住所を探すことは大変になる。

私の場合は、予定として三月末の頃、退居し、留学生支援会の井上さんのお宅で何日間泊まらせていただいた後、帰国すると考えたが、チケットがキャンセルになった影響で、泊まる期間は長くなってしまった。幸い、井上さんから優しく対応していただき、帰国する前に、泊まる場所をまた変えたりする不安を解消した。しかし、他の友達や、知り合いの話では、大家さんから部屋の契約期間を長く延ばすことができないと言われたりしたこともあるそうだ。ちょうどコロナが流行っているとき、シェアハウスなどにしたら、共用部分がたくさんあるため、感染リスクが高いという不安も持っているようだ。また、入国制限の影響で、いつ帰国できるかもはっきり言えないため、契約期間をいつまでしたらいいかという問題もあったらしい。

次に、多くの留学生にとって、今回コロナのような緊急事態を体験したことがないと思う。例えば、日本では、3月末の頃から、マスクや、消毒用ジェル、さらにトイレトペーパーなど必需品が一時的に買えないことも起こった。ただし、最初社会的に不安が生じたとき、学校から、あるいは住んでいる地域からの情報をあまり受けたことがない。もし親しい友達がいればお互いに助けられることができるが、心理状態が不安定な人の場合、パニックな状態に陥る可能性が高いのではないと思う。そのため、普段ではリスクマネジメントをすることは大事だと改めて考えている。緊急事態でどのように対応するかを学ぶ必要がある。今回のことで、もし学校から、リスクマネジメントに関するお知らせや、不安を取り除く相談をより多く設けていただければと思う。留学生にとって

きっと心強くなるのではないかと思う。

以上は私がコロナで感じたことである。生活では色々不便なところがあるが、それより、周りの方々がずっと優しくしていただき、やはり人間はいつでもお互いのつながりは一番大切であると感じている。自分もこれから周りの人にできるだけ優しく対応していきたいと思う。

8. 会員の皆様の声

“留学”との出会いとその後。

留学生支援の会 会員

大谷達之

私が浜松のある高校の2年生のころ、同級生の一人が、突如 AFS の留学生でアメリカで1年間留学することになった。「えっ、すごーっ」と、私は思ったものの、クラスでは最低クラスにいた私は、彼が人気者になったのを、ただ指をくわえてみていただけであった。

4年後、私は東京外語大の大学祭実行委員会の役員をしていた。前年、企画した「教授劇」が、15ほどの語学科の学生劇のどれよりも、ずっと人気があって、観劇後のひとたちが、「スペイン語のA先生は、さすがに役者だね」「いやー、先生、大汗かいて、しどろもどろだったんだよ」と、教授劇を楽しんでくれたのを思いだし、「そうだ、留学生劇をやってみよう」。その1、2年前から、増えだした留学生たちをつかまえて、「君たち、語劇をやらないか?」と、誘っていた。タイ語学科の日本人学生が中心だった学生たちの作った支援の会の一員と動いたのだ。

インドネシアからの留学生Oさんは、もともと、子供のころ日本で育ったので、平素、日本語での会話は、流ちょうそのもの。もう一人の主役のベトナムの留学生は、ベトナムから初めて日本に留学してきたTさん。たどたどしい日本語ではあったが、留学生の語劇トレーニングはその前年、モンゴル語劇でお世話になった有名な声優Kさん

に託し、私は、コーディネーターを務めた。

留学生劇の当日、舞台上、すっかり上手になった T さんの演技は光っていた。しかし、練習をしよっちゅうサボっていた O さんは、調子が出ず、焦って、セリフをわすれてしまった。プロンプターの言う通りを繰り返してしまったので、観客は大笑い。留学生の劇は、その年の人気投票で 1 番とはなったが、O さんは、それからすっかり精彩を欠いてしまった。

でも、気を取り直した彼は、再び、留学生仲間を代表して、一層、学生たちの留学生支援の会との仲立ちとして、至らない日本人学生のためにパイプ役になってくれた、いまもって、インドネシアと日本の貿易通商の世界でお世話になったと、多くの商社マンに感謝されている。一方、ベトナムの T さんは、学者となり、一時、つらい環境にあったようだが、のちに外語大がベトナム学科を設けたとき、いろいろアドバイスをしてくださったとお聞きしている。

さて、今、私は、20 年目を迎えた外語大の留学生支援の会の一員に、出戻ることになる。

昨年の夏、留学生別科の主宰する教育専門家の勉強会に出席、改めて日本語教育は、思いのほか難しいところがあることを再認識した。ついで、新設の国際日本学部 1 年生の、府中と調布の 5 分ものの PR 映像制作を 10 本近く、外国人学生と日本人学生の混成チームが挑んだものを、公開授業で専門家の先生がコメントしていたところを参観、別の 2 日間は、院生たちの研究発表大会であったが、いずれも素晴らしい発表を聞かせてもらい、しかも、その場の先生から、夜のお開きパーティへのお誘いまで頂いて、3 日間で、すっかり、留学生たちの新しい学究部分を観察させていただいた。うれしかったし、そのパーティで、この支援の会の幹事さんたちから、誘われて、再び、顔を出せるようになっております。

今、何か役立つことで動けないかなと思う。これから、外語大も、他学に伍して、優秀な留学生が欲しい。彼らがお国に帰ってから、外語大アラムナイでもこさえてくれないかと想う。世界の大

都市には、必ず外語会の海外支部がある。帰国後、そこへ立ち寄ってもらって、一緒に「外語大留学生アラムナイ」を作ってくれ、外語大の重要な部門・国際日本学部や大学院へ、優秀な学生を紹介してくれたらいいなと独りよがりなことを考えております。

ご入会・ご寄付、ありがとうございます

新規加入者

■一般会員(敬称略)

(令和 2 年 2 月 22 日～令和 2 年 6 月 19 日)

相澤正汰朗 赤塚智大 浅野智宏 味木至子
雨宮博之 石川修伍 石黒真椰子 石田亜貴
石原陽子 岩田尚志 宇田川有紀子 有働善弘
遠藤真紀 大橋隆司 大澤公二 大谷遥
大塚恒平 大野充人 大屋千寛 大屋結莉
岡崎渚 岡崎愛 岡部大地 小川実 小野三冬
小原隆 恩田陽介 粕渕明花 加藤譲二
加藤弓枝 金丸一也 蒲沢幸一 河村奈津子
木塚かほる 熊忠岩 郡山由美恵 國分孝一
小林修一 小林美奈子 佐藤誠 佐藤優斗
佐藤凜 佐野一彦 下山紀子 末広美羽 菅原均
鈴木日有桜 鈴木日南子 関理一郎 瀬戸貴代
千田耕史 仙北谷穂高 早山千恵 曾根公興
高橋海洋 高橋晴仁 高橋史人 高橋昌暉
高橋正志 高橋若奈 田中俊太郎 谷和明
谷和佳 種市直人 千葉康丈 月永源太
飛田藍梨 豊澤千佳子 永井武 中野渡博幸
永渕照康 中村二三子 中山幸子 西片和夫
新里大介 橋本均 長谷川薫 長谷川理香
ハダ・ドスサントス・ロジェリオ・ユキオ
早川賢一 早川正史 引地宙 樋口誠
平戸ゆり 福田亜理沙 ト蔵ゆみ 牧浩大
増田貴子 松井聡彦 松岡幸男 松下和弘
丸山真衣 水上有紀 宮川繁樹 宮崎唯雄
宮崎円 宮地努 宮本太郎 森けいと 屋形美紀
柳澤知美 藪崎晴花 山藤美朝 山本梨瑛
横山太郎 吉岡信之 渡邊愛

寄付者

■一般寄付（敬称略）

（令和2年2月22日～令和2年6月19日）

池谷満 伊藤真由美 井上久美子

梅田由美子 大島勇次郎 河合智恵子

河野喜代子 滝沢侑也 寺田朗子 野本京子

※異体字のために正しく表記されない場合がございます。万一お名前に間違いがありましたらお詫びいたします。その節は、当会までお知らせくだされば幸いです。

ご寄付のお願い

新型コロナ禍で困難に直面する留学生に対し、会では本会報でお知らせしましたとおり緊急生活支援金を支給することと致しました。しかしながら、会の収入源である春と秋のバザー・外語祭期間中バザーの開催中止を余儀なくされるなど、財政的に厳しい状態にあります。留学生により多くの支援活動ができますよう、会員の皆様の温かいご理解とご支援をお願い申し上げます。

ゆうちょ銀行

口座番号 00130-3-192674

加入者名 東京外国語大学留学生支援の会

幹事会

下記のとおり幹事会を開催しました。

令和2年4月1日（日）、

5月24日（日）、6月21日（日）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、大学敷地内の施設利用が困難となり、4月と5月はメールによる書面開催、6月はZOOMを使用したオンライン開催としました。

お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-2

東京外国語大学国際交流会館2号館1階

留学生支援の会連絡室

TEL: 042-330-5803

FAX: 042-330-5189

*現在、連絡室は閉鎖しています。

お問い合わせ等はメールでお願いします。

ryugakuseishienokai@gmail.com

留学生支援の会のフェイスブックでも、活動予定等ご紹介しています。ぜひご覧ください。

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

令和2年6月19日現在

会員数：935名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込みくださいますようお願い申し上げます。

28年度新入学の会員の皆様は、お納め頂きました4年分の会費の期間が終了致しましたが、引き続きご協力くださいますようお願い致します。

※ ひとりでも多くの方々の納入のご協力を
お願い致します。

一般会員：年会費 3,000円

協賛会員：年会費 20,000円

編集後記

今回の会報に寄せられた留学生、そして学長をはじめとする先生方の声に、新型コロナウイルスの大きな影響をあらためて痛感しています。皆様のご支援が留学生の大きな支えになります。お力添えをよろしくお願いいたします。

新入会員の皆様、入会ありがとうございます。紙面の都合上、会の会則は次号に掲載いたします。

（木全）

©Copyright 2020, TUFSS International Student Support Association

会報

Since 1999

【お知らせ】今年度のバザーは中止といたします

毎回留学生から大好評のバザーですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく中止といたします。ご理解のほどお願い申し上げます。

Pick Up
Event 2020

留学生支援の会の活動に参加してみませんか？

留学生の笑顔を作る活動です。興味のある方は当会までお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-2 東京外国語大学留学生支援の会 TEL 042-330-5803 FAX 042-330-5189

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

Contents

Page 1.	1. 巻頭言 副学長 今井 昭夫
Page 2.	2. 大学からのご挨拶 学生課長 山口 登之
Page 4.	3. 活動報告 1) 「新型コロナウイルス感染下での 留学生の学び継続を支援する 緊急給付金事業」の報告 留学生支援の会会長 谷 和明 留学生の声 2) 学会参加学生への支援
Page 9.	4. 今後の活動について 1) 11月末に新規入寮する交換留 学生の緊急生活支援 2) 近隣の国際交流・留学生支援団 体等との連携 団体紹介： DIVE フードバンク府中
Page12.	5. 会員の皆様の声
Page13.	新入会員・ご寄付御礼
Page14.	幹事会から 東京外国語大学留学生支援の会会則

FOCUS

1. 巻頭言

コロナ禍における留学生支援

東京外国語大学理事・副学長
今井 昭夫

今年度はコロナ禍により大学教育のあり方が一変した年でした。「三密」を避けるため、従来の対面授業から春学期には全面的にオンライン授業に切り替えられました。秋学期は、専攻語、GLIP 英語、ゼミ演習などの授業の一部は対面授業になりましたが、半分以上がオンライン授業のままです。来年度についても、コロナ禍の状況が大きく変わらない限り、対面授業とオンライン授業の混在でいくことになっています。オンライン授業の導入にあたっては、さまざまな混乱もありましたが、本学では学長をはじめ教職員が一丸となった努力により、比較的スムーズに導入できたと学内外から評価していただいています。なお、本学ではポストコロナの時代においても、世界言

語科目などの授業でオンライン授業を継続し、他大学にも配信しネットワーク化していくことを検討しています。

さて、コロナ禍における本学の留学生支援について、ごく簡単ではございますが、紹介させていただきます。学年度初め、コロナ禍による入国制限で新年度に来日が間に合わなくなった外国人留学生が生じました。2020年5月1日時点の外国人留学生は667人ですが、そのうち2020年度入学者でコロナの影響で来日できなかった人数が51人にのぼりました。特に国際日本学部所属の留学生が多かったのですが、これらの留学生はおのおのの自国で本学のオンライン授業を受講しました。教科書などは、送料を大学が負担し国際便で配送されました。こういった事態は昨年度までは考えられなかったことです。2020年10月には入国制限が緩和され、国費留学生とISEP(交換留学プログラム)留学生の106人が順次来日の予定になっています。国費留学生は来日してホテルで2週間待機後(ホテル代は文科省が負担)、自力で大学に来ることになっています。ISEPの留学生は空港から大学へは大学が手配したバスで移動し、本学の国際交流会館で2週間待機する予定です。

学生生活上の支援といたしましては、アルバイト収入の減少などにより学生生活の継続に支障をきたす学生等を緊急に支援することを目的とした、学びの継続のための国による「学生支援緊急給付金」が6月と7月の2度にわたって募集されました。これの給付額は、住民税非課税世帯の学生が20万円、それ以外の学生が10万円です。本学からは541人が採用となり、そのうち146人が留学生でした。また本学独自の「新型コロナウイルス感染症に係る緊急無利子貸与奨学金」が設けられ、原則として、一人10万円を上限に無利子で貸与しています。9月30日までの受け付けで、36人に貸与され、そのうち留学生は16人でした。そのほか、生活に困窮し食べ物にも困っている本学学生に対し、4回にわたって(7月10日、8月6日、9月4日、9月7日)、TUFSフ

ードパントリーがおこなわれ、多数の留学生が食品などの配布を受けました。

以上の学生生活上の支援は主に正規の留学生を対象としており、私費研究留学生は対象外でした。その点で、留学生支援の会による私費研究留学生向けの緊急給付金事業は、大学の留学生支援を補完していただき、非常にありがたいものでした。私費研究留学生は本学大学院への進学を希望するものが多く、いわば「近い将来の正規院生」の卵ともいえるこれらの人たちの学びの継続を支援することはきわめて重要だからです。応募者20人のなかから、真面目に勉学に取り組んでいて給付金の必要度の高いと思われる12人に各人10万円を支給することができました。この紙面をおかりしまして、あらためて留学生支援の会に感謝申し上げます。

2. 大学からのご挨拶

留学生支援の会では、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、アルバイトの減少等で生活に困窮をきたしている学生に対し、大学が主催した「フードパントリー」に協力をいたしました(10万円の寄付)。

山口学生課長より、フードパントリー事業のご紹介と当会へのお礼の寄稿をいただきました。

学生支援の新たな形態

「フードパントリー」

東京外国語大学 学生課長

山口 登之

新型コロナウイルスの影響により保護者の収入減、自身のアルバイト収入減などによる生活困窮が学生の学業継続を脅かしています。このような学生を支えようと、東京外国語大学では「フードパントリー」をプロジェクトとして7~9月に4

回実施しました。十分な食事を摂ることができない学生に食品を無料提供する支援事業です。

提供食品の持ち合わせもない状態でのスタートだったので、一番の懸念は学生の需要に見合うだけの食品の準備でした。授業はオンラインなので、パントリーに参加できる圏内に実際に居住している学生数も不確定でした。外国人留学生の生活が特に困難だろうとは想像できましたが、実態の把握は進んでいません。そこでアンケート形式の予備調査により、フードパントリーへの参加意思、必要食品の種類、食品以外の困難などを調べました。学生たちは真摯に回答してくれました。

提供食品の調達には主に(1) 学内の教職員、役員からの提供、(2) 卒業(修了)生、学生支援団体(留学生支援の会、学生後援会、東京外語会、東京外国語大学生協等)及び学生支援団体の構成員の皆さんからの提供、(3) 府中商工会議所会員企業からの提供、(4) 学生支援団体からの寄付金による購入によって行いました。

当初は食品調達の目途さえ立てば開催できると楽観的な見通しでしたが、決めておくべき多くの運営ルールが必要であり、特に1回目は想定を大きく超えたハードワークでした。幸い市内NPOのフードバンク府中の皆さんから様々なノウハウやアドバイスを頂戴でき、乗り切ることができました。提供する食品と学生のニーズとのミスマッチにも心配しましたが、4回続ける中で調整されていきました。

はじめての試みでしたが、大きな手ごたえを感じています。参加学生へのアンケートやインタビューからも満足度の高さがうかがわれます。他大学にない取り組みだと、本学の先駆性を評価してくれた外国人留学生もいます。

地元府中市の商工会議所とのつながりも大きな成果だと思います。挨拶に伺うときには、地域の「新参者」である東京外国語大学の存在がどの程度認識されているのかも不安でした。ところが、実際に意見交換を行う中で、杞憂であったことがわかりました。会員企業の皆様からは当方の想定を大きく超える食品を提供いただくことができ

ました。

現在のところ、今後開催する予定はありませんが、それには開催に必要なスペースと人員の配置に関して再検討すべき多くの課題があります。今回はオンライン授業期間であり、参加者数も毎回100名程度以下だったので、学生課の窓口業務を縮小してなんとか対応できました。けれども、対面授業が再開されてキャンパスの学生数が増え、パントリー参加者も大幅に増加すれば、授業開講とパントリーの業務を並行して行うことは困難です。

当日スタッフに学生ボランティアを依頼することも考えたのですが、他人に知られたくないという参加者心理を考慮して行いませんでした(これは、日本人学生に見受けられ、外国人留学生では確認されませんでした)。

食品貯蔵スペースの確保も課題です。今回はジャストインタイムでの調達を心掛けましたが、それでも開催2日前あたりからは多くの食品が届き、夏でもあり、学生課担当者からの悲鳴が聞こえました。

とはいえ、学生が喜ぶ顔が直接見ることができ、やりがいのあるプロジェクトでした。本学の学生が多方面から支援されていることも実感できました。プロジェクトが報道され、他大学や地域でも実施の検討を始めたという情報も嬉しいものでした。

最後になりますが、今回のプロジェクトへの貴会のご理解、ご寄付に厚くお礼申し上げます。寄付金は2回目以降の実施に活用させていただきました。今後とも、留学生支援へのご協力をお願い申し上げます。

3. 活動報告

1) 「新型コロナウイルス感染下での 留学生の学び継続を支援する 緊急給付金事業」の報告

留学生支援の会会長

谷 和明

新型コロナウイルス感染下で大学生の生活困窮が社会問題化しています。異国で暮らす留学生の状況はより深刻です。感染拡大防止のため従来実施してきた支援事業を中止せざるを得なくなるなか、会では仕送りやアルバイト収入の減少などにより困窮状態に陥った留學生に対する緊急給付金支給に取り組みました。

この計画については前号でお知らせしましたが、その後みなさまから多額の寄付金が寄せられ、おかげさまで予定より多く 12 名の学生に支給することができました。また、学生の食生活支援のため大学が実施した 4 回のフードパントリーに対しても 10 万円の寄付を行うことができました。皆様からのご支援に感謝するとともに、緊急給付金事業の概要を報告いたします。

今回の給付金のモデルは、文部科学省が全国の大学を通じて実施した「学生支援緊急給付金」(10 万円)です。これを受給できない困窮留學生 10 名に同額を支給することを基本理念にしました。

とはいえ、700 名近い留學生から 10 名の受給者を選ぶことは会の力量では不可能なので、様々な種類の留學生のうち、困窮度が最も高いと想定される集団を対象を絞ることにしました。アルバイト不要の奨学金が保障される国費留學生、政府や大学の公的支援制度の利用資格がある正規留學生、授業料が免除され、かつ間もなく帰国して自国の大学に戻れる交換留學生は除外し、留學生支援制度のいわば枠外に置かれた私費研究留學生を選考対象としました。自国、あるいは日本の大学を卒業し、大学院進学のために 1~2 年間専

門分野の研究指導を受けている留學生です。在籍者は 60 名余ですが、コロナ禍により来日できない留學生を除いた 40 名余に対し、7 月 1 日、給付金の説明文書と申請書を送付し、15 日の締め切りまでに 20 名の申請を受け付けました。申請率 5 割という数字は、彼らの直面している困難の深刻さを示しています。

受給者の選考には、その公正を期するため、今井昭夫副学長を委員長とする大学教職員 3 名、本会 3 名(会長及び幹事)からなる選考委員会があたりました。

選考の資料としたのは、申請書に記載された 1 カ月の収支概要、必要アルバイト収入額、コロナ前と現在のアルバイト状況の比較、給付金を必要とする理由等のデータです。これをもとに、勉学を継続する目的意識とそのための生活計画の有無、給付金を必要とする困窮度の高低を基準に審査し、同程度の場合には勉学に専念する必要性の高い 2 年目の留學生を優先する、国籍、出身地域の多様性にも留意するという準則を加味して検討を重ね、7 月 27 日の ZOOM 会議で 12 名の受給者を決定、すみやかに通知ならびに給付金振り込みを完了しました。

一連の作業は、申請募集から選考、支給に至るすべてをオンラインで行わざるを得ませんでした。その制約下で 7 月中に支給が完了できたのは大学側選考委員の方々の尽力に負うところが大です。支援の会と大学の協働という点でも、良い経験になりました。12 名の国、地域別内訳は中国 9 名(うち内蒙古 1 ウイグル 1)、タジキスタン 1 名、ウズベキスタン 1 名、コロンビア 1 名です。彼らが給付金をいかに役立てたかを感謝の念を込めて述べた報告を掲載しましたので、ご覧ください。

給付金受給者からの現状報告

「コロナ感染下での日本留學生生活」

* 給付金を支給した留學生のうち、5 名の方からお礼の寄稿がありました。

【中国からの留学生 Aさん】

最近、新型コロナウイルスがすごく話題になっているし、世界中、90%の国がコロナウイルスに影響されている。毎日、感染者が急激に増えており、ある国は非常に危険な状態になっているようだ。各国、新型コロナウイルスの蔓延を防ぐために、各国政府はコロナウイルスを抑える、様々な措置をとっている。中国で、発見した時間が早い、すぐ国から対策をしており、強権的に都市封鎖した。それで、感染者と無症状の人たちを隔離し、他人との接触を強制に断ち切ったのである。日本も同じ、緊急事態宣言を発令し、自粛対策した。でも、それが留学生としての私たちに非常に打撃を与えた。これによって交通インフラの減便、店舗の休業、「自宅で過ごそう」という家庭内での自粛生活などが浸透しました。この大きな変化によって、学生たちは大きな打撃を受けました。アルバイトで生活していた学生たちは困難の生活状況になった。2016年、日本の文化を勉強、日本語を高めるや博士が学位をとるために、日本に留学した。日本語学校を卒業してから、東京外国語大学の研究性になった。この一年間で、国際的な考え方を身につけて、良い環境で日本語を勉強し、異文化に接した。これから、大学院に入り、一生懸命勉強し、立派な先生になりたい。私の研究したいことは日本語やモンゴル語ホルチン方言の比較についてである。大学院に合格したら、日本語を勉強しながら、言語学の知識を学んで、自分の研究を進むと考えている。二年間の研究を順調に終わって、博士の研究をしようと思っている。

ただ、今年、コロナの影響で、中国にいる父も収入が減少されていた。家族五人、妹と弟も学生だから、今年、親からお金をもらえなかった。今年自分のアルバイトのお金で生活している。コロナの影響で、アルバイトの時間がすこし減らされて、6月の収入は10万円しかなかった。生活に困っているとき、東京外国語大学留学生支援会の給付金をいただき、ほんとに助かった。ほんとに感謝している。

新型コロナウイルスの影響により、アルバイ

トができずに生活費をどうやってすることを悩んでいたところ、このような支援金がある事を知り、心から安心ができた。コロナウイルスの脅威により芽生えた不安に押し潰されて、金銭的な支えとなるばかりでなく、精神的にも大きな支えになった。今回、寄附をして頂いたお金を大切に使用させていただく。将来教師になって、社会貢献という形で恩返ししようと思っている。

【中国からの留学生 Bさん】

大学を卒業したあとで、私は中国の日系企業に半年ぐらい仕事をしました。大学に4年ぐらいの日本語を勉強しても、実際には会社に日本人の上司とコミュニケーションする時に、なかなか難しいと感じました。また、日中文化が違うので、日本会社の職場雰囲気に慣れないです。主に以上の二つの原因で日本へ留学する考えが出しました。今後も日本会社で仕事をやりたいので、日本の文化と社会ルールを学ぶ必要だろーと思います。両親と相談した結果で、日本の留学生活が始まります。

日本での一年目は、日本の生活に慣れるために、普段の生活に一番簡単なことを学ぶ必要もあります。例えば、各種の代金、交通の乗り方でも学ぶ必要です。また学校の授業もだんだんに慣れます。日本に来た2年目にコロナ感染で、学校はオンライン授業を実施されましたが、出かける機会が少なくなります。また、中国での両親もコロナ感染で仕事の量が少なくなって、ベーシックインカムだけで、送金が少なくなります。日本にの私は半年ぐらいアルバイトをした店舗に解雇され、新しいアルバイトを探しにくいので、生活は難しくなります。

この10万円の緊急給付金は主に一ヶ月の家賃と交通費に充て使い、残したお金はほとんどマスクと消毒用品に充て使いきれました。この一番難しい一ヶ月に過ぎ去りました。最近新しいアルバイトを探しましたが、院生の試験が終わったら、改めてアルバイトをします。このつらい時間が早く過ぎ去ることを願っていますが、もともとコ

コロナ感染前の生活に戻りたいです。

この難しい時に、東京外国語大学留学生支援の会からの10万円をいただき、本当に助かりました。支援の会会員の皆様は、コロナ感染に対し暖かいご理解の上、緊急給付金のご寄付を賜り、学習、研究の継続に多大なる支援をされました。よってここにそのご厚意に対し深く感謝の意を表します。

【中国からの留学生 Cさん】

日本はアジアだけでなく、世界においても著しく発展の進んだ国です。それは、経済面のみならず、文化面においても同様です。特に、地域社会の住民自治組織やNPO・NGOといった民間ボランティア組織などのアソシエーションは非常に活躍しており、いろいろな役割を果たしています。私は、それについて興味を持ち、日本での留学を決心しました。今日本に来て、まだまだ日本での生活に馴染んでいない外国人ではありますが、地震や台風などの防災や、地域の協会の文化イベントなどの様々なことから、アソシエーションの存在がとても強く感じたのです。日本に来て良かったと思いました。

冬休み中、自分の国の状況も詳しく調べるために一時帰国しましたが、コロナウイルスのクラスターによって、どこにも行くことができず、残念ながら現地調査もできませんでした。どうしようもなく日本に戻りましたが、勤めていたアルバイト先は営業自粛となったことが分かり、アルバイトもできなくなり、収入が0となってしまいました。さらに、シングルマザーである母の仕事もコロナ禍に影響され、今までの仕送りも不安定になってしまいました。そして、去年に入院した私は、今までに薬を飲み続け、定期的に病院に行っています。コロナの感染拡大によって、経済面や健康面だけではなく、図書館などの施設が利用できなくなったり、現地調査もできなくなったり、オンライン授業で先生とのやりとりをしにくくなったり、勉強に関しても大きく影響を及ぼしたのです。そこで助けてくれたのは、会員の皆様です。皆様

から寄付していただいたお金は、1円も無駄にせずに使いたいと思います。それは、生活費に使う以外にも、実は、私は参考書に使いたいです。日本の本は値段が高くて、特に専門書の場合は何千円や1万円以上することもあります。今まで図書館などで借りることにしていた必要な参考書がこれで買えるようになったことは、皆様から見れば細やかすぎるのかもしれませんが、私にとっては大いに助かったことです。

コロナ禍によって、皆様の生活や仕事にもきっと影響が出ているのではないかと思います。こういった状況でも、寄付していただくのは大変ありがたいと思っています。感謝の言葉は言い切れませんが、その分、一生懸命勉学に励むことにします。最後、お礼を申し上げますとともに、皆様のご健康でありますよう、心よりお祈りします。一緒に、コロナを乗り越えていきましょう。

【中国からの留学生 Dさん】

東京外国語大学留学生支援の会が経済的に支援してくださったことに対して、心から感謝の意を表します。

新型コロナウイルスの感染拡大により、世界各地の経済が大きな影響を受けました。日本の大学生のうち、お金がなくて大学をやめる学生がいる新聞を読んでとても残念だと思いました。せっかく日本に来て、留学生活を送っている私はどうしても学び続けたいので、この給付金を申請しました。

わたくしは大学で英語専攻だったので、元々卒業後外国に留学して、語学力や専門知識を伸ばせ、生活力やトラブル対処能力、文化適応能力など、様々なスキルを身につけたいと思っていました。少数民族の教育問題について興味深いので、様々な資料を調べたことがあります。大学に通っていた間、日本の学界で少数民族やエスニック問題について盛んに研究されているとわかって、日本を留学先と決めました。日本にきた最初の1年半は日本語力を向上させるため、日本語学校に通っていました。その間、東京外国語大学で世界各地

域について研究している学者が多く、各国からの留学生も多いと聞いて、東京外国語大学の大学院を目指して研究生を応募しました。

合格通知をもらってから4月に東京外国語大学に入学することを期待していましたが、想定外にコロナ感染拡大して生活が苦しくなりました。私にとって日本での生活に一番お金をかかるのが家賃である。日本語学校にいた時からアルバイトで月9万円くらい稼ぎ、家賃と生活費の一部に使っていました。しかし、コロナの影響でバイトの収入が前と比べて急激に減少したので、生活に必要なお金を稼げない状態に陥りました。アルバイトしていた飲食店がコロナ禍で今年の2月から売上がだんだん減少したため、シフトに入れてくれないから仕方なくてやめました。その後、すぐ他のアルバイトを探したが、やはりコロナ感染拡大のせいで求人が少ないです。4月から家近くのコンビニでバイトを始めたが、以前に比べて時給が少なく、シフトも週2回しか入れないので、昔の半分に至らない給料をもらうしかありません。自粛中お金を節約するため、1日1食取っていましたが、家族からお金をもらわないと家賃さえ払えない状態になっていました。しかし、実家にいる親の収入もコロナ故に安定的ではありません。畜産業に携わっている父の収入が大きな影響を受け、牧畜の売買がなかなかうまくいきません。

緊急給付金を受け取ることは私にとって学費の支払いの大きな手助けとなりました。緊急給付金を使って秋学期の学費を払いたいです。お金の心配がなくなって研究テーマにより専念することが可能となりました。緊急給付金の支援の下、日本の文化を経験し、自身の視野を広げられる機会を得られることを非常に幸運に思います。これから東京外国語大学での勉強と生活の中で、私は更なる努力をします。

東京外国語大学留学生支援の会の全国の会員に感謝致します。これから先もこの優しさを胸に抱きつつ研究を続けていきます。私の人生を左右する不可欠な支援に対し深く感謝いたします。

【コロンビアからの留学生 Eさん】

2015年にMEXT文部科学省の学部奨学金で来日し、東京外国語大学の日本語教育センターにて1年間日本語の勉強をし、2016年に同じ東京外国語大学の国際社会学部・フランス語科に入学し、2020年3月に卒業することができました。卒業後も日本で進学したいという気持ちが強く、東京外国語大学のPCS大学院プログラムに申請して、馴染み深い外語大に後2年間も勉強を続けることになり、とても嬉しい時でした。しかし大学院入学が10月でしたので、2020年春・夏学期の間は私費研究生として勉強を継続するようになり、その時までずっと奨学金とアルバイトで生活していた私にとっては経済的に大変な時期でした。

コロナウイルスの影響でさらに、務めていたバイト先自体が困難にあってしまい、経済的・精神的にとっても不安な時期となりました。それまでのアルバイト先は二つあって、英会話の対面レッスンという形で仕事をしていたのですが、新型コロナウイルスの影響で、対面レッスンを希望するお客さんが圧倒的に減り、一つのバイト先との契約が突然解約となってしまい、残りの可能なお仕事がオンライン形式になり、以前の対面レッスンと比較的にかなり低需要でした。

今もそうですが、もともとから実家からの送金がほとんどなくて、私費研究生としても奨学金ももちろん採用されていません。コロナが拡大してしまう前に、学部の時に受給していたMEXTの奨学金から貯金で貯まったお金とアルバイトで生活ができていましたが、私費研究生になった4月ごろにちょうどウイルスの影響も大きくなり、事情が激しく変わってしまいました。

家族から離れており、向こうコロンビアの状況も悪化しつつあるというニュースを毎日聞き、不安な気持ちを抱えながら研究生としての勉強も非常に辛くなり、それまでに頼りにしていたアルバイトも困難になり、経済的にも不安定な時期にちょうど、留学生支援の会の皆様から緊急給付金を支給していただくことで大きく救われました。心から感謝申し上げます。

コロナウイルスの影響で様々な形で不安な気持ちが勉強の成果にも伝わるのではないかと感じていましたが、緊急給付金のおかげで経済状況も気持ちにも安定が戻ると感じました。勉強に集中できて、研究生コースを終えることができました。これからの大学院進学も明るい気持ちでまた勉強の成果を上げるように頑張れると思います。留学生支援の会会員の皆様、誠にありがとうございました。

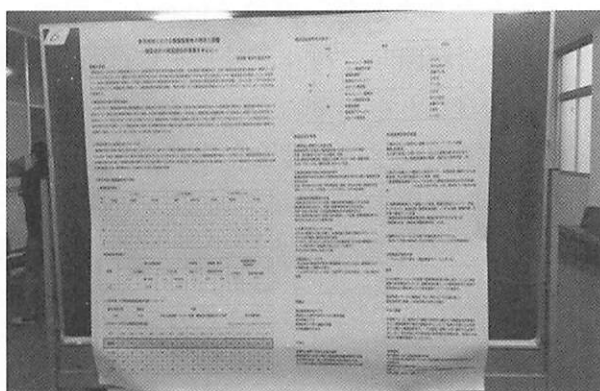
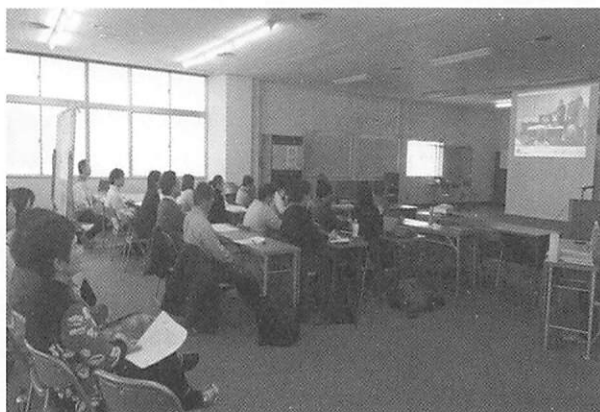
2) 学会参加学生への支援

学会出張報告書

東京外国語大学大学院
総合国際学研究所博士後期課程
ソミョンファン

私は、2020年2月16日(日)に開催された外国語授業実践フォーラムの第19回研究会合に参加してきました。外国語授業実践フォーラムは、諸言語における実践教育の研究が行われている研究団体で、今回は私も発表者に選ばれ「東京地域における韓国語教育の現状と課題」というタイトルで貴重な発表の機会をいただきました。前回の第18回は、立命館大学東京キャンパスで開催され一般者として参加し、韓国語や諸言語の教育について最新の研究の動向や言語教育に関連する知識を学ぶ有益な時間になりました。私は、今回の第19回の三重会合には、地域の韓国語教育の実践という立場から韓国語採択事業を中心に、東京地域における韓国語教育の現状と課題を考察し、これから進むべき方向を提示することを目的として発表させていただきました。具体的に東京地域で行われている教育事例(東京都内の高等学校3校)を紹介し、その事例から分析した内容を中心に地域の言語教育について、またその方向性について語りました。今後の課題としては、今回の発表では、東京地域と高等学校が主な研究対象になっていましたが、今回の研究を踏まえてさらに、他の地域との比較研究や大学の教育にもその対

象を広げたいと思います。また、学習の当事者向けの視点から考えられる言語教育の実践という新たな課題についても続けて研究を行いたいと思いました。そして、他の大学先生の発表を通して実際の教育現場でしか得られない貴重な教育の研究成果を身につけることが出来たのも自分にとってはもう一つの大きな成果ではないかと思いました。最後にこのような研究活動に貴重な支援を受けることが出来て非常に嬉しく思います。ご支援に心から感謝申し上げます。これからも益々研究に専念してまいりたいと思います。



ソミョンファンさんの発表

*この学会は今年2月に三重県で開催されたものですが、紙面の都合上、今回の会報でのご報告となりました。

*留学生支援の会では、海外の学会で発表する留学生に1人5万円、国内の学会で発表する場合は1人2万円を申請により支給しています。

4. 今後の活動について

今年度、留学生支援の会では、今後も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の大きな影響を受けている留学生に支援を続けていきたいと考えています。大学からの情報によると、直近の留学生受入れ状況は次のとおりです。

国際交流会館入居留学生数の概況 (2020年11月5日)

	入居定員	現在入居者	今後入居予定者
1号館	137	61	38
2号館	72	12	21
3号館	230	1	29
計	439	74	88

*日本人学生は含まない

*特別に2~3か月入寮を許可した留学生(数名)は含まない

*1号館に現在入居する61名は大部分が国費学部進学留学生

*今後1号館、3号館に入居予定の67名の大部分がSEP生(今回の支援対象)

*今後2号館に入居する21名の大部分は国費日研生、研究生ら

国際交流会館を利用する留学生には、大学から次のような指示が出ています。

また、11月末の来日が予定されている ISEP 留学生の国別の状況は以下のとおりです(11月12日時点)。

国籍	男性	女性	総計
アイルランド	2	2	4

イタリア	1	1	2
インドネシア		1	1
ウガンダ	1		1
ウクライナ		1	1
エジプト		2	2
ギリシャ	1		1
スペイン	2	3	5
スロベニア		1	1
タジキスタン		2	2
チェコ	3	1	4
ドイツ	2	1	3
トルコ		3	3
フランス	5	3	8
ブルンジ	1		1
モロッコ	1		1
モンゴル		1	1
ロシア	3	7	10
英国	1	1	2
韓国		1	1
台湾		2	2
中国		4	4
中国(香港)		1	1
総計	23	38	61

今後変化することも予想されますが、コロナ禍の中、来日する留学生にとっても、受け入れる大学にとっても、緊張の高い状態が続くと思われます。

留学生支援の会では、今後、次のような具体的な支援を行う予定です。

1) 11月末に新規入寮する交換留学生の緊急生活支援 会長 谷 和明

留学生支援の会幹事会では、コロナ感染下での緊急生活支援事業の一環として、11月末来日予定の交換留学生に対して食器類を提供することを

決めました。以下にその経緯と概要を説明します

東京外国語大学キャンパスには国際交流会館（主に留学生のための学生寮）が3館並んでいます。収容力は450名近くで、世界各地の青年たちが半年～1年間生活を共にする活気にあふれた国際コミュニティを形成しており、支援の会の活動拠点もその2号館にあります。ところがコロナ感染拡大に伴う渡航制限の影響で、国際会館に居住する留学生数は急減し、8月には20名ほどと、空き家状態になりました。

とはいえ秋になり、渡航緩和とともに入居者が回復し始めています。10月には文科省の特別な国費奨学金制度で選抜された学部進学留学生60名余が1号館に入居しました。同じく国費の研究生や日研生など20名余も2号館に入居しつつあります。さらに11月末には60名余の交換留学生在が1号館と3号館に入居します。年内には入居留学生数は160名程に達するでしょう。

新規来日留学生は、感染拡大防止のため2週間の自主隔離が義務付けられます。国費留学生の場合は文科省が手配したホテル等で2週間過ごした後交流会館に入寮しますが、交換留學生は空港から大学手配のバスでキャンパスに直行し、交流会館の自室で隔離期間を過ごさねばなりません。外出や他者との接触は原則禁止ですから、2週間分の食料や必需品は各自で持参し、自室内で調理、摂食することになっています。室内には簡単な調理設備はありますが、食器類は一切ありません。

留学生課からこのような情報とともに支援の可能性を打診された幹事会は、メールによる意見交換と検討を重ね、会として実行可能な支援策として、隔離期間の食生活に必要な最低限の食器類等を購入し、それをウェルカムキットとして贈ることにしました。高張り、壊れやすい食器まで携行させるのはあまりにも酷だ、そのスペースに本の一冊でも余計に詰めて欲しい、という思いからです。通常なら学期当初に実施するバザーに代わる支援の意味もあります。そして、不慣れな生活の中で、きちんと食事をとれることは、安心の第一

歩となる大切なことです。さらに、これが諸君を全国の支援の会会員が歓迎し、支えているというメッセージとなり、来日早々の孤立生活を励まし、不安を軽減することも期待しています。

この支援の目的をまとめると、以下の3点となります。

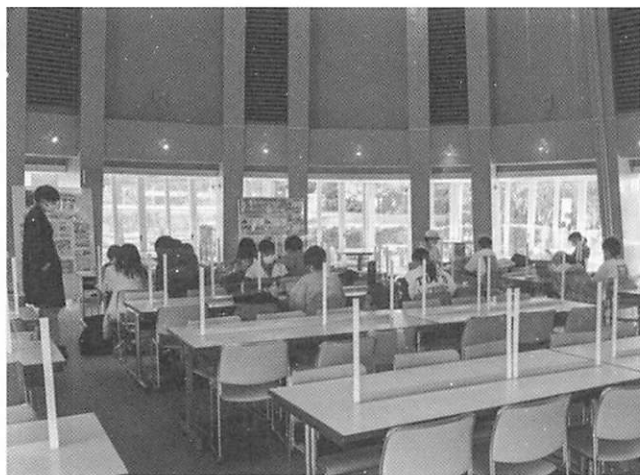
- (1) 2週間の隔離期間中の留学生の人間らしい食生活の保障に貢献する
- (2) 来日早々孤立状態に置かれる留学生たちに、支援の会の存在を伝え、精神的な安心感を与える。そのことを通じて、隔離期間後の留学生とのコンタクトを容易にする。
- (3) 2週間の隔離を要する留学生の受け入れという、大学として初めての問題に対し、支援の会なりの貢献をする。

最近の欧州を中心とする感染再拡大により、交換留學生たちが計画通り来日できるか予断できない状況となりました。幹事会としては、会員の皆様から寄せられた会費や寄付を有効に活用するため、事態の変化に適時対応しつつこの支援事業を実施し、その結果を次号で報告いたします。

なお、ウェルカムキットの中には、食器類のほか、マスクや消毒薬、タオルなど、すぐに活用してもらえるものを入れています。留学生の皆さんの不安を少しでも和らげることができればと願っています。



留学生対象の対面授業も少しずつ始まりました。



アクリル板設置など感染予防策がとられた学内

2) 近隣の国際交流・留学生支援団体等との連携

東京外国語大学がある東京都府中市には、新型コロナウイルス感染症拡大の中、国際交流や留学生支援を積極的に行っている団体があります。東京外国語大学の卒業生がその中心となって活躍している団体もあります。

今回、ご紹介する2つの団体のうち、「Dive 府中国際交流サロン」は、市民の異文化理解を通じた多文化共生社会を目指して、8月にリニューアル・スタートしたフレッシュな組織で、外大卒の若いスタッフの方々が本会との連携に期待されています。また、「フードバンク府中」は、廃棄される食品ロスを集めて福祉施設や困窮世帯に配給するフードバンク活動に取り組んでおり、この夏に東外大が実施し、本会も寄付支援を行った TUFUS フードパントリーに多大な貢献をされました。

支援の会もそういった会の皆さんや地域住民の方々と連携しながら、さらに活動を広げていけるとよいと考えています。

多様な人々が交わりあう地域社会へ

国際交流サロン「DIVE」コーディネーター
関谷 昂(東京外国語大学 2019E 卒)

東京外国語大学留学生支援の会 会員の皆さま、初めまして。

府中市市民活動センター プラッツの中に、2020年にリニューアルオープンしました多文化共生施設「DIVE」のコーディネーターを務めております、関谷と申します。私もここ東京外国語大学を卒業し、曲がりなりにも多文化共生ゼミに在籍していた身として、このような仕事をここ府中で任せられたことに、大きなご縁を感じております。

さて、少子高齢化・人口減少の流れにあつて、国策としても主に労働者としての外国人の受け入れを増加させている中、日本社会の多文化化は勢いを増して進んでおります。東京外大がある府中においても、この5年間で1000名以上の外国人住民が増える等、例に漏れず多文化化が進んでいるようですが、しかしまだまだ市内での多文化共生への理解や取り組みは十分ではないように思われます。

そこで私たちの施設では、「市民の異文化に対する理解を深めるとともに、外国人住民に対しての市政情報等の提供や市民との交流の機会を提供し、誰もが暮らしやすい地域づくりに寄与するとともに、当該目的のための市民活動の推進を図る」という目的のもと、「誰もが異文化への理解をもつ多文化共生社会の実現」を目指して活動をしています。多文化共生社会の実現に向けては、「マイノリティの支援」という枠組みで見るとは、誰かが対等であり、相互に影響を与え合う関係性を築いていくことが重要であることから、異文化への理解を促進すること、また交流の機会を創出していくことをまずは重視し、その中で見えてきた課題に対しての対応を行っていく予定でございます。

府中市と東京外大は包括協定を結んでおり、現在までも様々なコラボレーションをしてきましたが、今後さらに協働の幅を広げ、留学生を含め東京外大と地域との接点と交流機会を作っていくことが出来れば、多様性に溢れた地域社会を作ることが出来るのではないかと期待をしています。是非今後とも、府中・外大(留学生)双方にとって気持ちよい関係性を作っていければと考え

ておりますので、引き続き何卒よろしくお願いたします。

DIVE FB ページ

<https://www.facebook.com/FuchuDive/>

フードバンク府中の活動を紹介します！

フードバンク府中 松本 靖子

フードバンク府中は 2019 年 7 月に府中市社会福祉協議会の企画で準備会が発足され、2020 年 4 月、市民が主体となり本格的に活動を開始しました。活動の目的は、『府中市内から飢えを無くすこと』です。コロナ禍に限らず、経済的な理由で食品を購入する事もままならぬ状況に陥ってしまう方は常におられます。同じ街の中で、飢えに苦しんでいる方がいる。この現実を、私たちは放っておいてはいけなと思いました。

毎週金曜日の食料支援では、市役所や社会福祉協議会から紹介されてきた市民への食料支援を行います。加えて、2020 年 5 月からは学生向けのパントリーを開始しました。府中市内では一人親家庭への食料支援を子ども食堂の方々が既に行っておられましたので、まだ支援の手が及んでいないであろう学生へのアウトリーチを目論んでの事でした。

結果、多くの学生たちが誰にも相談できないまま苦しんでいた事を知りました。「アルバイトが減り生活資金が足りない。」「言葉の壁があり、新しい仕事が見つげづらい。」「実家の収入が減り、仕送りが無くなった。」「ゴミ袋が購入できない。」「限られた食事で生活する中、体調を崩している。」という、予想以上の困窮がアンケートから伝わります。一方、「日本でパントリーが開かれる事を知り、母国の両親が安心している。」との声もあります。

私たちが行える食料支援は、ほんのささやかなものです。東京外大支援の会の皆様におかれましては、ぜひ留学生や外大生にアンケートを行って頂き、その声を発信して頂きたい気持ちであります。大学生の困窮を知ったからには、支援者がそ

れを知っているのみではなく、この現実を多くの方に知ってもらわなくてはならないと考えています。

また、学生の困窮に対し、公的な支援制度が無い事も大きな問題です。国策で学生への支援制度が作られるよう、声をあげていく事が大切ではないでしょうか。

フードバンク府中でも、より多くの学生の声を受け止め、発信を行っていく予定であります。

*今回、フードバンク府中からノウハウの提供を受け、大学でも学生アンケートを行い、フードパントリーが企画・実施されました（詳しくは 2 ページの山口学生課長の寄稿をご覧ください）。留学生支援の会でも、皆様からの寄付金を活用し、大学のフードパントリーに協力しました。今後も皆様のご支援、活動へのご協力をお願いします。

5. 会員の皆様の声

世界の有為な若人たちとの触れ合いを糧に

留学生支援の会会員（元幹事）

中村 皓一

8 年半前の 4 月、66 歳で念願の外大生となって学業以外に部活にも参画しようと考え、ある運動部への入部を希望したが、残念ながら「年齢差が部活の秩序を崩す」との理由で実現しなかった。でも、どうしても若人たちと親しく触れ合う活動の場が欲しかった時、幸いにも当会の存在を知って間髪を入れずに中嶋初代会長を訪ね、その場で「学生なのですが、会の幹事役としてお役にたてるでしょうか？」とお願いして快諾をいただいたことがすべての始まりである。

初めの半年間は、主として留学生への我が国伝統文化紹介・体験を目的とする日帰りツアー行事のお手伝いをさせていただき、その過程で行事企画や現地での種々必要課題を学んだ。すると、日本紹介を必ずしも伝統的な文化・遺産だけに限定せず、世界

最先端レベルを走る生産技術も留学生に紹介するに値するのではと考えて幹事会で提案したが、当時の笹岡副会長からありがたい応援演説をいただき、その対価として「言い出したお前がやれ！」とのご下命をいただいた。

そこで、「留学生が見たこともないような、あるいは一生目にする機会もないような巨大な生産工場が、いかに効率的なシステムで稼働しているのか」を紹介することこそ自身の使命と考え、その候補として製鉄、自動車、造船、航空機等を思いついたが、まずは基幹産業基地とも言える製鉄所に電話を入れて「外大で学ぶ世界各地からの留学生に近代的な製鉄プロセスを紹介したいので、ぜひ見学させてほしい」と依頼した。快諾を得たが、大きな課題も残る。すなわち、交通の便を考慮してバスをチャーターしアクアライン通行料を支払うと、限られた予算内では昼食代が出せない！そこで見学先に泣きつき、「今回見学させていただく約40名の留学生の中から、近い将来御社での勤務を希望する優秀な人材が出るかもしれない！ここはひとつ、お弁当を提供していただけないだろうか？」と。熱意(ごり押し?)が通じ、さらには午後の日本酒酒蔵見学・試飲会も紹介して貰って、見事予算内で自身初回のツアーを全うできた。だがそれにも増して嬉しかったのは、海外からの有為な若者たちが好奇心に富む眼を開いて、巨大な溶鉱炉の威容や真っ赤な鉄が無人運転で最終形状へと圧延される姿を脳裏に焼き付けてくれたことであり、事後の感想文からは次の企画への新たな勇気を与えられたものだ。

失敗や恥かきも経験したが、その最たるものは歌舞伎ツアー時の留学生からの一言である。終演後参加者に「どうだった、面白かった？歌舞伎の会話、理解できた？」と尋ねたとき、返ってきた言葉が「会話理解はいまいちだけど、面白かった。ところで、中村さん、ほとんど寝てましたね！」と。まあ、これも留学生との懐かしい交流の一場面である。

昨年3月、外大での学生生活を終えて時間的にも学業ノルマからも自由の身となったが、これが自分には解放ではなくて弛緩と感じられた。そこで後期高齢者になることを機会に、もう一度自らを鍛え直す意味

からも言語・文化面で異なる環境下に身を置き、新たな学問分野に挑戦することを決意して、多年お世話になった当会幹事役を退かせていただくことにした。世界的なコロナ感染拡大のもとで当会活動も制限され、その一方で留学生の困難な生活・学業環境を救済・支援することに幹事の皆さんが精一杯奔走しているとき、我が儘を通すことには自身の中にも大いなる抵抗はあったが、今後とも当会で経験できた世界の若人たちとの思い出を糧として、一会員として応援していきたい。

最後に、土日祝日を除く日の午後、仕事や家事の合間を縫って留学生会館に駆けつけ、いつも留学生たちに直接寄り添いながら文字どおり当会活動の根幹を支えてくださっている支援室担当幹事の皆様、ここに心からの御礼と敬意とを贈らせていただきます。

ご入会・ご寄付、ありがとうございます

新規加入者

■一般会員(敬称略)

(令和2年6月20日～令和2年10月31日)

松井里美 和田武士

寄付者

■一般寄付(敬称略)

(令和2年6月20日～令和2年10月31日)

青木まゆみ 浅野太 渥美宗三 阿部やよい
阿部善信 天野友亜 鮎澤孝子 五十幡圭右
磯部信一 板久恭子 内海香織 梅田由美子
遠藤高子 大谷達之 大塚定 大坪美智子
北昌宏 北村みどり 木全玲子 木村三紀子
久野裕子 倉友喜久男 挙市玲子 鴻野初恵
小島照恵 小平京子 小林佐智子 五味和行
齋藤薫 酒井暁 定本博巳 佐藤桂子
新堂睦子 鈴木剛士 鈴木正道
スポサト・ウィリアム・ジェームズ
関口洋子 頼母木久代 寺田朗子

中谷博之 新山晴美 根岸幸代 野中千恵子
箱崎洋子 長谷川雄一 原田史恵 疋田妙子
平山廣二 星野隆 本望春夫 前田稔
松下宗柏 松田素子 村上光一 山内麻友子
山岸隆夫 山田和子 山田有佐子 横石邦彦
吉田展子 吉田ゆり子 米山智榮子 鷺澤祐子
渡辺恵子

幹事会から

1) 会計と名簿の担当者から皆様へ

会員の皆様、いつも会費やご寄付をご納入くださいまして有難うございます。

この新型コロナ禍の下、私たちが支援する留学生たちも厳しい試練に見舞われましたが、会員の皆様から今年度は現在までに100万円に近い額のご寄付をいただきました。早くからお問い合わせをいただき、特に7月に会報64号をお届けして大学や留学生の様子をご説明し、ご寄付のお願いをさせていただきましてからは、連日のように何名もの方からお振込をいただきました。皆様のご厚意に深く感謝申し上げます。

会では留学生に直接届く支援として、学長をはじめとする大学側のご意見を伺いまして緊急支援金120万円と大学フードパントリーへの寄付に10万円の支出をいたしましたのは会長がご説明した通りでございますが、このご厚意をさらに留学生に届けるため、幹事会ではさらなる活動を模索しております。

私は会計と名簿を十数年にわたり担当させていただいておりますので、会員の皆様の手書きの振込票（払込取扱票）を、今はオンラインでパソコン画面上ではありますが、いつも拝見させて頂く立場にあります。お忙しいなか郵便局に足をお運びくださいまして会費やご寄付を納入くださるのを本当に有り難く実感し、日本中の会員の皆様に思いを馳せております。入学手続きと同時に続々と入会して下さる保護者の皆様には、合

格とご入学おめでとうございます！との思いで喜びを分けて頂いています。長年年会費をお振り込みくださる方々はお名前も筆跡もお馴染みで、またお会いできたと嬉しく感じます。特に今年は例年以上にご寄付も頂きまして、皆様の留学生を気遣うお気持ちと、当会に託せば困窮する留学生に届くというご信頼を感じ、会の責任の重みも改めて実感することとなりました。お一人お一人にお礼を申し上げたいくらいですがそれは叶いませんので、この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当に有難うございました。

最後にお願いです。会報が宛先不明で返送されることが毎回数件あります。会報はヤマト DM 便で送付していますので、ご転居の場合郵便局に転居届をお出しになっても会報は転送されません。また、大学への住所変更も当会は外部団体です。どうか、ご住所変更の際は会へ直接お知らせ下さいますようよろしくお願い申し上げます。

支援の会メールアドレス

ryugakuseishienokai@gmail.com

(会計名簿担当幹事 阿部)

2) 「会員番号(会員 ID)の発行について」

留学生支援の会では、会員の皆様とオンラインで繋がれるようなオンライン化計画を模索しています。

例えば、ウェブ上で会報の閲覧ができるようにすること、メールによる情報の発信、また振込用紙以外による会費納入(クレジットカード決済等)の検討などを進めています。

これに伴い、今後、メールアドレスの登録をお願いすることになりますが、まずは会員の皆様に**会員番号(会員 ID)を発行いたします。次号からの会報発送の際に宛名の下に会員番号を記載します**ので、ご了承の程よろしくお願い致します。

なお、会員の皆様からのご意見・ご協力もいただければ幸いです。よろしくお願い致します。

3) 幹事会の開催

以下の日程で幹事会を開催しました。

9月27日(日) 11月22日(日)

お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-2

東京外国語大学国際交流会館2号館1階
留学生支援の会連絡室

TEL: 042-330-5803

FAX: 042-330-5189

*現在、連絡室は閉鎖しています。

お問い合わせ等はメールでお願いします。

ryugakuseishienokai@gmail.com

留学生支援の会のフェイスブックでも、活動予定等ご紹介しています。ぜひご覧ください。

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

令和2年10月31日現在

会員数: 937名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込くださいますようお願い申し上げます。

28年度新入学の会員の皆様は、お納め頂きました4年分の会費の期間が終了致しましたが、引き続きご協力くださいますようお願い致します。

※ ひとりでも多くの方々の納入のご協力を
お願い致します。

一般会員: 年会費 3,000円

協賛会員: 年会費 20,000円

東京外国語大学留学生支援の会 会則

第1条(名称)

本会は「東京外国語大学留学生支援の会」と称する。これを「東外大留学生支援の会」あるいは「東外大支援の会」と略称することができる。

英文表記は Tokyo University of Foreign Studies - International Student Support Association とし、英文略称を TUFUS-ISSA とすることができる。

第2条(所在地)

本会の事務局は東京都府中市朝日町3-11-2、東京外国語大学(以下、東外大と略記)に置く。

第3条(目的)

本会は、東外大に在籍する外国人留学生、研究者及びその家族への支援、並びに彼らの日本理解を深め、日本人との友好親善を促進する活動を行うことを目的とする。

第4条(事業)

本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 留学生の生活がより快適なものになるような支援事業
2. 留学生の日本理解が深まり、日本人との友好親善が促進できるような支援事業
3. 活動状況を広く知らせる会報、ニュースレター等の作成と発行
4. その他、本会の目的達成に資する事業

第5条(会員)

本会は国籍の如何を問わず、本会の目的に賛同する者で組織する。会員はいつでも役員会(幹事会)に事業に資する提案ができ、また事業に参加することができる。

第6条(役員)

本会は次の役員を置く。

名誉会長	若干名
顧問	若干名
会長	1名
副会長	2名
幹事	20名以内

事務局長(幹事長)1名

会計 1名

監事(会計監査役)1名

第7条(役員を選任)

役員は次のようにして定める。

1. 会長、副会長、幹事、会計、監事(会計監査役)は総会で出席者の半数以上の賛成をもって選出されるものとする。
2. 役員名簿は年度当初に別表で明示する。

第8条(役員の職務)

役員の任務は次の通りとする。

1. 会長は本会を代表し、幹事会を招集し、議長を務める。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときは、会長の職務を代行する。
3. 幹事は総会を構成し、総会の議決に基づき、本会の業務を執行する。
4. 幹事長(事務局長)は総会の議決に基づき、幹事の業務を指揮する。
5. 会計は本会の会計年度の予算案、決算報告案をまとめる。
6. 監事(会計監査役)は本会の会計及び会務執行の状況を監査する。

第9条(役員任期)

各役員任期は2か年(通常は4月から)とする。但し、再任は妨げない。

第10条(幹事会)

幹事会は原則、毎月開催し、総会(幹事団と会員有志で構成する拡大幹事会)は通常、年1回開催する。幹事会は議事録を作成し、会員がいつでも閲覧できるようにする。

第11条(会報)

本会の活動状況を広報する会報は通常年3回(2月、6月、11月)発行し、必要に応じてニュースレターなどを追加発行する。

第12条(事業費)

本会の事業運営経費は会費、寄付金およびその他の収入をもって充てる。

第13条(会計年度)

本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

第14条(決算報告)

会長は毎会計年度終了後、決算報告書を作成し、会員に公表しなければならない。

第15条(会則)

本会の会則は総会において出席者の3分の2以上の賛成で成立し、かつ改訂できる。

附則

本会則は制定の日(2019年4月21日)から施行する。

編集後記

2020年も年の瀬を迎えます。今年は新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。オリンピックやパラリンピックも延期となり、海外から大勢日本を訪れていた観光客も激減。このような1年になるとは誰が予想したでしょうか？支援の会としても留学生の皆さんに対し、何ができるか模索してきました。その中で会員の皆様のご寄付や励ましの声を多数いただき、改めて会としての役割を再認識しました。引き続きお力添えをよろしくお願いいたします。

新しい年が皆様にとって佳い年となりますように！

(木全)

©Copyright 2020, TUFSS International Student Support Association

会報

Since 1999

【お知らせ】今年度のバザーは中止といたします

毎回留学生から大好評のバザーですが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、やむなく中止といたします。再開の際は、ぜひご協力のほどお願い申し上げます。

Pick Up
Event 2020

留学生支援の会の活動に参加してみませんか？

留学生の笑顔を作る活動です。興味のある方は当会までお問い合わせください。

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-2 東京外国語大学留学生支援の会 TEL 042-330-5803 FAX 042-330-5189

Contents

Page 1	1. 巻頭言 コロナ禍での「支援の会」の活動 留学生支援の会副会長 勝又 美智雄
Page 2	2. ご挨拶 今こそ留学生に温かい支援の手を！ 大学院総合国際学研究院 岡田 昭人
Page 3	3. 活動報告 1) ウェルカムキットの配布 留学生の声
Page 6	2) ホームページができました！ 3) フードバンク府中の学生対象フードパントリー事業を支援する寄付
Page 7	4) 「コロナ禍の下での留学生の生活調査」を行いました
Page 18	5) 「コロナに負けるな！生活応援券」配布事業
Page 18	4. 留学生から 1) 給付金受給者から 2) 支援の会の皆様へ
Page 19	5. 今年度の活動を振り返って
Page 21	6. 今後の活動について
Page 22	新入会員・ご寄付御礼 幹事会から

1. 巻頭言

コロナ禍での「支援の会」の活動

留学生支援の会 副会長
勝又 美智雄

東京外大の「留学生支援の会」は全国でもきわめてユニークな団体です。20世紀末に故・中嶋嶺雄学長が在任(1995-2001)中、「大学の国際化」の旗振り役として留学生の積極的な受け入れに取り組み、大学事務局を整備する一方、留学生の「安心と安全」を下支えするボランティア団体を設立することを決めました。会長には中嶋学長夫人の洋子さんが就任、外大OBで長年サンリオの辻教育財団でアジアからの留学生の世話をしてきた笹岡太一常務理事、それに学生課職員だった梅田由美子さんの3人が中心になって、外大生の父兄・大学近隣の市民に幅広く呼びかけ、大学から1円の補助金もなく、全くのボランティア団体としてスタートしました。

「支援の会」の活動は、留学生が大学での授業や研究生生活だけでなく、日本の歴史や文化、日本人の日常生活をより詳しく知って、日本ファンになってもらいたいということが基本です。そのために、浅草や両

国、鎌倉、川越などへのツアー、国立劇場での歌舞伎鑑賞、様々な工場見学や酒蔵見学など、首都圏各地に足を延ばして「支援の会」のメンバーと留学生が親しく語り合いながら楽しむ企画を工夫してきました。OB の協力も大きく、鎌倉ツアーのサポートをしてくださっているほか、毎年とりわけ留学生に人気を博しているのが、静岡県沼津市のお寺の住職をしている外大 OB 生が企画し、留学生を2泊3日のホームステイで受け入れる「富士山ツアー」です。毎年10-20人の留学生がホームステイの家庭で家族同様に親しくなり、留学後もそのホスト・ファミリーを母国に招くなどして交流を深めています。

この20年間、会の活動はまさに会のメンバーたちの豊かなアイデアで、お茶・お花・着付け教室、料理教室、地元の神社やお寺の祭礼行事に参加するなど、活発な活動を続けてきましたが、昨年春以来コロナ禍の影響で「三密」を避けるために、会の活動もほとんどできなくなってしまいました。そこで、昨年春、三代目会長に就任したばかりの谷和明東外大名譽教授のイニシアティブで、留学生課と緊密に連絡を取り合いながら「支援の会」として何ができるかを模索してきました。

そこでまず実現させたのが、アルバイトの場なども失われ、特に困窮している留学生への支援金の支給です。大学と協力して審査を行い、迅速に支給対象者を決定し、7月に12人の学生に1人10万円を支給することができました。

また、11月には、コロナ禍の不安を抱えながら来日する留学生の不安を少しでも和らげるため、ウェルカムキットの配布も行いました。

さらに、長年の懸案事項だったホームページの立ち上げも実現しました。ここを舞台に、「支援の会」のメンバーと留学生が自由に交流できる場として、留学生の生活の不安・悩みを率直に話してもらい、会のメンバーたちがそれに出来る限りの助言をする体制が生まれました。

大学事務局の留学生課は、留学生の入国手続きや学籍管理などを中心にした業務で事実上手一杯で、留学生たちの日常的な悩みを受け止め相談に応じることがなかなかできないのが実情です。その点、

「支援の会」はボランティア団体であるが故に柔軟に留学生の悩み事に応えられることが、これまでも数多くありました。支援の会事務室にはこれまでも留学生たちが様々な相談を持ちかけてきていましたが、今後もホームページと事務室の活動で、コロナ禍だからこそ欠かせない「安心と安全」を留学生のために確保する体制づくりが必要だと思います。「三密」をうまく防ぎながら、留学生たちと「支援の会」のメンバーが親密に交流していけることを願っています。

コロナ禍では「ピンチをチャンスに」が合言葉になって、いかに事態を乗り越えるか、に取り組んでいますが、「支援の会」もまた会員の皆さんの創意工夫で新しい交流の機会が生まれることを期待しています。

今世紀になって登場した留学生たちは完全なデジタル世代で、フェイスブックやツイッターを自由に使いこなし、故郷の家族や友人と連絡を取り合っています。今生活している日本をより深く知る機会を求めていることは確かです。

大学の授業は「対面」と ZOOM を活用した遠隔授業との組み合わせで「ニューノーマル」の体制を築いてきています。「支援の会」もまた ZOOM などを活用した遠隔企画も考えることが必要かもしれませんが、交流の原点は、対面でお互いに親しく笑顔で話し合うことにあります。マスク越しの会話では真意が伝わりにくいもどかしさがあります。この夏以降一日も早く、マスク無しで楽しく語り合える機会が来ることを期待しましょう。

2. ご挨拶

今こそ留学生に温かい支援の手を！

岡田昭人

(大学院総合国際学研究院・支援の会副会長)

昨年は全世界規模での新型コロナウイルスの感染拡大により、大学は通常の対面授業ができなくなりました。新年度は三週間遅れで開始され、すべての授業が急遽リモート学習に切り替わり

ました。学生・教職員とも不慣れなリモート学習。板書しながら説明する講義や、学生同士のディスカッションなど、オンラインではスムーズにいかず皆困惑しました。学生は図書館や院生室などの学習スペースを利用することもできませんでした。一方で教員は講義内容を逐一デジタルデータ化して配布することが必要でした。このような混乱状況のなかで、提出課題やレポートなどが増え、皆が「オンライン授業疲れ」していることが新聞などで報道されました。

また新年度から来日する予定であった留学生の大半が入国制限により渡航できなくなりました。交換留学制度が開始されて以来の大幅な留学生数減で、国際的な学びを特徴とする東京外国語大学にとっては大きな衝撃でした。それでも海外からオンラインによる授業に参加してくれた留学生もいました。時差の違いや ZOOM のテクニカルなトラブルなど様々な問題あったのですが、よく頑張ってくれました。

在籍する留学生たちにとっても十分な学びができる環境ではありません。緊急事態宣言による外出自粛中、アルバイトができなくなり経済面で困窮する、ひいては心身面で健康に不安を抱いているという状況がみられ、留学生をめぐる状況は過酷でした。

当方のゼミにはたくさんの留学生が在籍しているので、特に春学期は学生たちの学習・生活面でのケアをいつも心がけて、何か問題が生じた場合には直ぐに連絡がとれるようにしていました。特にオンライによる卒業論文指導には苦労しました。対面なら簡単に説明できることでも、オンライではままならないことが多々あり、コンピューターの小さな画面ではお互いの表情や気持ちが伝わりません。

緊急事態宣言解除後、大学は可能な限り対面での授業を再開し、リモート学習を組み合わせたハイブリッド形式で学生との交流機会を増やしました。次第にキャンパスに学生たちが戻り、笑顔もみられました。

留学生支援の会も経済的に困難な状況にある

私費研究留学生を中心に、緊急支援金の支給、来日したばかりへの留学生へのウェルカムキット（生活品セット）の提供、また大学や地元府中市の市民団体が実施する学生対象のフードパントリー（無料の食材配給）への寄付協力など、種々の支援活動に取り組んでいます。

皆様、これを機に支援の事業への一層の参加、協力をお願いします。留学生はこのような異常な事態であっても奮闘努力しています。

本会の支援活動はホームページやフェイスブックでも公開されております。

今こそ私たち日本人が一丸となって、留学生たちを温かい支援の手を差し伸べて参りましょう。きっと将来、現在のことが大学の歴史の一つとなって語り継がれる日が来ると思います。

3. 活動報告

コロナ感染拡大の下で、従来の事業すべてを中止せざるを得なくなった今年度、支援の会では、コロナによる様々な困難に直面している留学生の生活支援に取り組んできました。

11月には、ウェルカムキット配布を実施し、12月には府中市内で学生対象のフードパントリー活動に取り組んでいる「フードバンク府中」への10万円の寄付を行いました。

また、新しく支援の会のホームページも立ち上げました。

さらに、12月末から1月にかけて、大学の留学生課の協力も得て、「コロナ禍の下での留学生の生活調査」を実施しました。調査回答者には、「コロナに負けるな！生活応援券」の配布を行いました。以下、詳細をご報告します。

1) ウェルカムキットの配布

会報65号でお知らせいたしましたように、幹事会では、会員の皆様から寄せられた会費や寄付を有効に活用するため、昨年11月24日以降順次来日、入寮した ISEP 留学生を対象に、2週間

の隔離生活の不便と不安を少しでも軽減するためにウェルカムキットの配布を行いました。キットには会の自己紹介を含むウェルカムメッセージを同封し、食器類（皿、多目的ボウル、マグカップ）、カトラリー、タオル、マスク、ティッシュペーパー、インスタントラーメン、パン、コンスープなど、すぐに活用してもらえものを入れました。全部で 61 セット準備しましたが、1 名来日できなかったため、60 名に配布しました。

2 週間の隔離生活というかつてない事態への支援の試みであり、実のところ、どの程度役に立ったのか心配でした。事後何名かの学生から感謝の言葉を受け取りましたが、学生との接触、コミュニケーションの機会が制約されている中で、評価や意見を本格的に調査することが遅れていました。このたび会の HP を立ち上げたのを機会に、その機能を利用してオンラインでアンケートを実施し、19 名からの回答を得ました。その結果、全員がキットの有用性、必要性を高く評価していることが確認できました。

アンケート結果の概要

アンケートでは、キットが①役に立ったか、②今後の ISEP 生にも必要か、③特に役立った品物、④使用しなかった品目、⑤追加が望まれる品目、⑥自主隔離期間中の困難、⑦改善提案や意見の 7 点を、①②は選択肢、③以降は記述式で回答してもらいました。

その結果、①と②に対しては全員がそれぞれ「とても役立った」、「必要だと思う」を選択し、今回の試みの有効性が高く評価されていることがわかりました。

③特に役立った品目としては、食器、カトラリーが圧倒的で、次いでマスク、ティッシュ、食料品がかなり多く上げられています。

④使用しなかった品目としては、8 名が全部使用したと回答しています。それ以外でも、物品に関してはタオル（持参したため）が挙げられているのみです。他方、食品に関しては、宗教的な理由、菜食主義、個人の嗜好などで食べられなかつ

た食品名を挙げた学生が 7 名いました。

⑤追加した方が良いと思う品目として複数回答された品目は、多い順にトイレットペーパー（不足したのでしょうか）、青果物（果物、野菜）、フライパン、石鹸・シャンプー類です。それ以外に、ナイフ、ハンガーなどが挙げられています。

⑥2 週間の自主隔離期間に困ったこととしては、食料品の量的な不足（空腹）、青果物の欠乏、シャンプーや歯磨きのようなアメニティ用品の不足が複数挙げられています。また「寂しさ」「退屈さ」を挙げた学生もいます。食料品配給に際してのムスリムに対する配慮のなさも指摘されています。

⑦改善提案等を回答したのは 11 名ですが、そのうち 7 名はキットが役立ったことに対する感謝の念を表すもので、なかには機会があればボランティアとして会に協力したいという嬉しい回答もありました。改善要望としては、食料品の配給に際して、学生の個人的条件への配慮（ムスリムへの配慮を含む）の要望が 2 件ありました。

以上からは、自主隔離期間に食べ物や生活に必要な日用品などがなかなか手に入らないなど、切実な状況がうかがえます。ウェルカムキットの中にもインスタントラーメンなど、すぐに食べられるものを入れていますが、一方、ムスリムやベジタリアンなど、配慮の必要な食習慣の留学生もおり、さらにきめ細かい対応が必要とわかりました。

留学生課が提供した万能鍋などの物品や数日ごとのパンの配給などに関する評価や意見が多かったのも印象的でした。来日直後の留学生にとって、支援の会と留学生課の区別がつかないのは当然といえるでしょう。この事実は、留学生支援における両者間の情報共有と協力の重要性を、改めて示しています。4 月以降、新たに約 120 名の ISEP 留学生の入学・入寮が予定されていますが、より充実した支援が行えるよう、留学生課と協力して取り組んでいきたいと思えます。

最後に、ウェルカムキットを受け取ったドイツ人学生（匿名希望）から、次のようなメールが届きましたのでご紹介します（原文のまま）。

私の来日は大変な困難を伴うものでした。そもそも東京外語大学のご担当者さまから、必要書類（誓約書）をお送りいただいたのは、ドイツ出国の約二週間前で、そのため私は非常に長い期間、留学が実現するのかどうか、不安な日々を過ごすこととなりました（もちろんコロナ禍中に留学生を受け入れることで生じる、大学側のリスクはお察しいたします。また、来日を望む全ての留学生にとって、受入機関の負担となるのは本望ではありません）。

くわえて私の家族も、私の留学に不安を抱き、断念するよう勧めてきました。

それでも私は留学を諦めませんでした。

入国後の経験は、出発前のそれより良かったです。

成田空港、送迎用タクシー、国際交流会館、いずれの場においても、出会った人は皆親切で、敬意をもって私に接してくださいました。留学開始時の膨大な書類作成も、大学の方のご助力のおかげで無事に済みました。

先生がお尋ねになられた会館での自己隔離期間も大変快適でした。

ドイツの一般的な下宿よりも多少手狭な印象は受けましたが、設備はとても整っていたと思います。冷蔵庫はドイツのより高性能で、個人部屋なのに浴槽が付いていた点に感動しました。

規則上、外出出来なかったのが辛かったですが、家族に電話を掛けることで気分転換いたしました。くわえて自己隔離期間中には、食事や生活必需品もご支給いただきました。もしこのご高配がなければ、私はいったいどうなっていたでしょう。

ドイツから日本までは非常に遠く、飛行機には重量制限もあります。来日後に自分で買おうにも今はそれすら出来ません。

一応、ドイツから「お米」を持参していたのですが、入管法の関係で入国時に捨てざるを得ませんでした（事前に関連 Web サイトを確認していたにもかかわらず、私は日本へのお米の持ち込みが禁じられているのを知らなかったのです）。

このような状況下で、留学生支援の会のお差し入れは大変心強く、おかげさまで安心して生活することができました。

留学生課の方々が、外国人の食の好みに留意してくださっていたのも嬉しかったです。

以上の支援をご提供くださった皆様に、心よりお礼を申し上げたく思います。

ところで、先生は先日お会いした際、私に「新しく来る留学生に関する提言」も求められました。ですので最後に、ご支援ではカバーしきれなかった点も書き添えさせていただきます。

まず、食事につきまして。日本人の平均的な食事は、外国人にとっては「少なく」感じられるようです。また、焼き菓子のご提供は本当に嬉しかったのですが、実用性の点ではインスタントラーメンに軍配が上がりました。

つぎに掃除用具につきまして。自主隔離期間中、私はスポンジや洗剤などの掃除用品を通信販売で購入しました。これはお貸しいただいた部屋を清潔に保つためです。

また自炊は大変だったので、ナイフも注文しました。

色々とお書かせいただきましたが、このメールが少しでもお役に立てば幸いです。

改めてあたたかいご支援ありがとうございました。今後ともどうぞよろしく願いいたします。



歓迎のあいさつと支援の会の案内を入れました。



すぐに使えそうなものを入れました。

2) ホームページができました！

支援の会とは何か、何を行っているのか、何を必要としているのかを、全国の会員、東京外国語大学の留学生、日本人学生、関係者、さらには広く社会に発信する電子媒体として、会のHPを新たに立ち上げました。

コロナ禍の下、リアルな活動、コミュニケーションが大きく制約されるなかで、会員の方々が会の事業や運営に気軽に参加できる手段として活用されることを願っています

会のHPは会員の電子広場であり、その発展、充実には全会員の提案、批判、情報提供などの協力が不可欠です。

そこで、お願いします。

まずは、支援の会のHPをご覧ください。そのうえで、「参加と協力」⇒「会員広場」にある「HP評価票」を利用して、HP改善のための感想、意見を送信してください。

そしてもちろん、今後は定期的にHPを訪問してください。(幹事会HP担当)

留学生支援の会HPアドレス

<https://www.tufsis.com>

3) フードバンク府中の学生対象フードパントリー事業を支援する寄付

フードバンク府中は府中市および社会福祉協議会と連携しつつ、食品業や小売業から大量に出される余剰食品を回収して福祉施設などに配分するフードバンク活動に取り組む市民団体です。コロナ感染拡大で学生の生活困窮化が問題とされ始めた昨年春、同団体はいち早くその重要性に着目し、府中市内の満足に食べられない大学生を対象に、1~2週間分の食料を無償配布するフードパントリー活動を開始しました。

これには予想を超えた希望者があつまり、留学生を含めた相当数の外大生も食料配給を受けるようになりました。この事実を知った外大は、フードバンク府中からノウハウを学び、昨年夏に大学独自のパントリーを4回実施しています。

同団体のパントリーへの参加学生は増加の傾向にあり、特に大学近辺に居住する相当数の外大留学生が今後も定期的に支援を受けることが予想されます。

幹事会では、同団体の支援を受けている外大留学生の実態およびパントリーの意義を知るため、12月20日の幹事会に団体代表を招いて説明を受け、討議しました。その結果、同団体のパントリーがコロナ下の留学生にとって重要な意義を持つ支援活動であることを確認し、従来への支援に対する感謝と今後の事業継続への支援の意味で、10万円の寄付を行うことを決定しました。

決定に際しては、寄付行為は独自の支援活動実施を目的に会費や寄付を受ける本会の基本理念にそぐわないのでは、という疑念やためらいの意見も多く出されました。

それを踏まえつつ、会員の皆様には、コロナにより会の事業が制限されるなかでのベターな選択として、他団体の支援活動への支援を決定したことを、ご理解くださいますようお願いいたします。

4) 「コロナ禍の下での留学生の生活調査」を行いました

留学生支援の会ではコロナ禍における留学生の生活状態を知るため、留学生実態調査を行いました。

12月23日に質問・回答票を留学生課に依頼し、約500名の留学生にメールで送付し、メールで本会宛に回答させる方式で行い、令和3年1月6日の締め切りまでに63名の回答を得ました。

この事業の大きな成果は、「生活調査」により、これまで曖昧だった留学生のコロナ下での生活実態がかなり明らかにされたことです。特に「コロナ感染下で困っていること」や「留学生支援の会に期待すること」について、自由に記載してもらった設問では、多くの貴重な意見が寄せられました。ぜひ今後の事業計画に役立てていきたいと思っております。また、会員の皆様にもこの情報を共有するため、調査結果を以下のとおりご報告しますのでご覧ください。

1 調査の概要

- (1) 形式 質問票（選択および記述）への回答記入
- (2) 対象者 2020年5月1日以前に東外大に入学した外国人留学生
- (3) 実施期間
2020年12月23日～2021年1月6日
- (4) 実施方法 メールおよびHPによる質問票の配布、メールによる回答回収
- (5) 回答者数 63名

2 調査結果

- (1) 回答した留学生のプロフィール

所 属					
区分	回答者数	割合	在籍者	構成比	回答率
学部正規生	10	15.9%	174	33.9%	5.7%
大学院前期正規生	27	42.9%	163	31.8%	16.6%
大学院後期正規生	18	28.6%	89	17.3%	20.2%
学部研究生	6	9.5%	82	16.0%	7.3%
大学院研究生	1	1.6%	5	1.0%	20.0%
無回答	1	1.6%			
合計	63		513		12.3%

性別			年齢		
男	11	17.5%	20-24歳	11	17.5%
女	51	81.0%	25-29	30	47.6%
無回答	1	1.6%	30-34	10	15.9%
			35-39	9	14.3%
			40以上	2	3.2%
			無回答	2	3.2%

日本留学開始年		
2020	1	1.6%
2019	11	17.5%
2018	15	23.8%
2017	18	28.6%
2016	5	7.9%
2015	3	4.8%
2014	3	4.8%
2013	4	6.3%
2012	1	1.6%
2011	1	1.6%
2010	1	1.6%

入学年		
2020	14	22.2%
2019	28	44.4%
2018	9	14.3%
2017	6	9.5%
2016	3	4.8%
2014	1	1.6%
無回答	2	

出身国		
中国	35	60.3%
韓国	5	8.6%
台湾	2	3.4%
ロシア	2	3.4%
シリア	2	3.4%
シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、ウズベキスタン、カザフスタン、タジキスタン、アゼルバイジャン、イラク、イタリア、アメリカ、ブラジル	各1	各1.7%
無回答	5	

- (2) 生活状況

①住居と通学

留学生の多くが民間のアパートに居住していますが、6割以上の学生が20分以内で通学していますが、2時間以上かけて通学している学生もいます。

住居の種類

学生寮	2	3.2%
アパート	55	87.3%
下宿	0	0.0%
その他	5	7.9%
無回答	1	1.6%

居住形態

単身	43	68.3%
友人と同居	11	17.5%
家族と同居	9	14.3%

居住市区

府中	41	65.1%
杉並	4	6.3%
武蔵野	3	4.8%
三鷹	2	3.2%
江東	2	3.2%
立川	2	3.2%
小金井、調布、西東京、国分寺、町田、八王子、世田谷、川崎、千葉	各1	各1.6%

通学交通手段

徒歩	26	41.3%
自転車	13	20.6%
公共交通	24	38.1%

通学時間（片道）

5分以下	9	14.3%
10分	11	17.5%
15分	13	20.6%
20分	6	9.5%
30分	9	14.3%
35～45分	6	9.5%
60分	3	4.8%
70～80分	3	4.8%
130分以上	3	4.8%

コロナ禍の前と後とで、大学に来る日数がどのように変わったか聞きました。

1週間当たり来校日数 （コロナ前）

0日	1	1.6%
3日未満	3	4.8%
3日	9	14.5%
4日	16	25.8%
5日	22	35.5%
6日	2	3.2%
7日	9	14.5%

有効回答62

1週間当たり来校日数 （現在）

0日	15	24.6%
1日未満	4	6.6%
1日	11	18.0%
2日	7	11.5%
3日	7	11.5%
4日	6	9.8%
5日	11	18.0%

有効回答61

コロナ禍の影響により、通学日数がかなり減少しています。

②家計について

家計状況についても質問しました。

最近1カ月の収入

5万～7万円未満	8	13.1%
7万～9万円未満	8	13.1%
9万～11万円未満	15	24.6%
11万～13万円未満	10	16.4%
13万～15万円未満	14	23.0%
15万～20万円未満	3	4.9%
20万円以上	3	4.9%
参考	平均11.1万円	

最近1カ月の支出

5万～7万円未満	6	9.8%
7万～9万円未満	7	11.5%
9万～11万円未満	21	34.4%
11万～13万円未満	9	14.8%
13万～15万円未満	12	19.7%
15万～20万円未満	3	4.9%
20万円以上	3	4.9%
参考 平均	11.4万円	

収支のバランス

収入>支出	16	26.2%
収入=支出	30	49.2%
収入<支出	15	24.6%

コロナ感染拡大のなかでの経済状態

非常に苦しく、留学を続けられるか不安	14	22.2%
苦しくなったが、なんとかやっていけるだろう	41	65.1%
経済的な困難や不安はない	5	7.9%
無回答	3	4.8%

◆収入について

基本収入の構造

家族援助依存型	14	24.1%
家族援助のみ	5	8.6%
家族援助+バイト	9	15.5%
アルバイト収入依存型	19	32.8%
アルバイトのみ	11	19.0%
アルバイト+家族援助	5	8.6%
アルバイト+奨学金	3	5.2%
奨学金依存型	23	39.7%
奨学金のみ	11	19.0%
奨学金+家族援助	1	1.7%
奨学金+アルバイト	9	15.5%
奨学金+バイト+家族	2	3.4%
3収入無し	2	3.4%

家族からの援助

なし	35	60.3%
3万円未満	5	8.6%
3万～5万円未満	5	8.6%
5万～10万円未満	6	10.3%
10万円以上	7	12.1%
受給者23名の平均額6.1万円		

アルバイト収入

なし	19	32.8%
1万円未満	2	3.4%
1万～3万円未満	8	13.8%
3万～5万円未満	9	15.5%
5万～7万円未満	8	13.8%
7万～9万円未満	8	13.8%
9万円	2	3.4%
10万円以上	2	3.4%
受給者39名の平均額4.9万円		

奨学金

なし	32	55.2%
3万円	1	1.7%
4.8万円	6	10.3%
5万円	1	1.7%
8万円	1	1.7%
10万円	3	5.2%
11万円	1	1.7%
12万円	4	6.9%
14.6～14.8万円	8	13.8%
15万円	1	1.7%
受給者26名の平均額10.2万円		

回答した留学生のうち、約6割の学生は家族からの援助はなく、約7割はアルバイトで何らかの収入を得ています。奨学金を受けているのは半数以下となっています。

◆支出について

1 か月間の支出について質問しました。

民間のアパートに住んでいる学生が多く、毎月の家計に家賃の占める割合が高くなっていることがわかります。

支出内訳の平均像

費目	金額（円）	比率
家賃	52,263	45.7%
食費	26,473	23.2%
光熱水費	8,342	7.3%
通信関係費	6,543	5.7%
交通費	4,815	4.2%
その他	15,875	13.9%
合計	114,311	

家賃

3万円未満	1	1.7%
3万～4万円未満	6	10.3%
4万～5万円未満	10	17.2%
5万～6万円未満	19	32.8%
6万～7万円未満	16	27.6%
7万～8万円未満	4	6.9%
9万円	1	1.7%

参考 平均5.2万円

食費

1万円未満	4	6.9%
1万円台	10	17.2%
2万円台	16	27.6%
3万円台	17	29.3%
4万円台	6	10.3%
5万円台	3	5.2%
8万円	1	1.7%

平均2.6万円

光熱水費

5 千円未満	4	6.9%
5 千円台	14	24.1%
6 千円台	9	15.5%
7 千円台	3	5.2%
8 千円台	5	8.6%
1 万円台	11	19.0%
1.1 万～1.5 万円	7	12.1%
2 万円	4	6.9%

平均 8 千円

通信費

0 円	2	3.4%
4 千円未満	11	19.0%
4 千円～6 千円未満	13	22.4%
6 千～8 千円未満	11	19.0%
8 千～1 万円未満	6	10.3%
1 万～1 万 5 千円未満	11	19.0%
1 万 5 千～2 万円未満	3	5.2%

平均 7 千円

交通費

0円	12	20.7%
2千円未満	3	5.2%
2千円～4千円未満	13	22.4%
4千～6千円未満	11	19.0%
6千円～1万円未満	5	8.6%
1万円	10	17.2%
1万5千円	1	1.7%
2万円	2	3.4%

平均5千円

(3) 外国人だから困ると感じること

コロナ禍のなかで、外国人だから不利、困ると感じることもあるか

ある	26	41.3%
少しある	28	44.4%
ない	9	14.3%

<p>バイトの収入がなくて、新しいバイトを探していたが、なかなか雇用してくれませんでした。経済的に不安です。日本で生きていくだけ、中国より何倍のお金がかかります。中国にいる両親の収入は低いから、親に負担をかけすぎるかもしれないと心配しています。</p> <p>毎日修論を書いており、わからないことが多く、焦っていました。時々、外に遊びたいと思うが、コロナ感染症にかかったらどうしようと心配でいけないことも多かった。ずっと家に引きこもって気分が落ち込んでいました。</p>	<p>なくなっていました。そして、生活費として両親へ前より大きな負担をかけてしまうことになって、自分が恥ずかしいと思います。</p>
<p>就職活動に心配しています。</p>	<p>アルバイトをやるかやらないか、困っています。また、来年、就職することも心配しています。</p>
<p>父は中国吉林省で自営業をしています。コロナウイルスの影響は深刻のため、父の収入は70%~80%減、私の留学に経済支援ができない状態が続いています。</p> <p>自分のバイト先もコロナウイルスの影響で契約を更新してくれなくなりました。今年の4月から今までバイトの収入はゼロです。</p> <p>さらに11月は出産しましたから、医療費用が高くて、経済的には困難な状態であります。そして育児の都合で今年の就業活動に参加できなくなり、未来についてすごく不安を持っています。</p>	<p>一人でいることがたまに不安になります。ほぼ一年続けるコロナでいつ終わるか先が見えません。最初の頃は2ヶ月ぐらいで収まるかなと思っていたら結局一年も長く続けてどんどん不安になってきました。研究もちゃんとできないし、仕事も全くありません。ワクチンができたとしてすぐ前のような生活に戻れるかと誰も言えないので、不安ですね。はっきりわからないことが不安です。早く帰国して家族とも会いたいと思います。まだ、奨学金があるから生活費はなんとかしています。本当に助かっていますと心の中で何回も何回も思っています。でも、奨学金も来年の4月で終わるので、ちゃんと計画して使わないと後が困ります。12月になるにつれてあせてきました。夜眠れない時もあります。泣きたくても涙が出ないですね。こうなっているのが絶対私一人だけじゃないと、前向きに考えるように頑張っています。もう今まできたから後少しでしょうと、乗り越えるしかないです。</p>
<p>仕事や、バイトのご紹介をお願いしたいです</p>	<p>私は奨学金をもらっているおかげで経済的な不安がありませんでしたが、2月に寮を出て、アパートに住むことになりましたので、ずっと一人で閉じ込められているような気持ちになっています。経済面での問題がなくても精神的に辛いです。友達と会えない、新しい友達が作れない、ずっと一人にいるので、孤独感を感じてしまいます。母国にいる家族と会いたいの、会えないし、いつ会えるかわかりません。1年半以上家族と会えない状況です。</p>
<p>1.観光客がいいため、バイト探しはコロナ前より難航しています。</p> <p>2.今年の4月から入学したため学校では知り合いがあまりなく、Web 授業に少し疲れてきて、精神的に少し辛い時もありました。</p>	<p>Mostly people's attitude has changed. The pandemic in itself is very isolating but I have the feeling that because I'm a foreigner, I'm being avoided when I go in public even though I'm taking my precautions as advised.</p>
<p>もしコロナに感染したら経済的に大丈夫なのか、支援はもらえるのか不安。</p> <p>経済的に厳しいから感染を避けるためアルバイトを減らしたくても減らせないというジレンマ。</p>	<p>昔は池袋に住んでいますが、半年間ずっと通学できず、一人暮らしなので、半年間話しできる人すらもいなかった。もともとのバイトは外国人むけの仕事、相</p>
<p>ただでさえ留学生としての就活が不安なのに、コロナによる不景気で就職出来るかが非常に不安です。金銭的にも厳しいので貯金ができないことも不安です。</p>	
<p>情報が少ない</p>	
<p>来年の就職が心配している</p>	
<p>元のアルバイトは日本へ旅行してきた観光客に翻訳・通訳することですが、コロナの影響で、観光客がほとんどないことになりますので、アルバイトもでき</p>	

対的に楽だったバイトですが。コロナの影響でバイトも無くなりました。バイトがなくなったので、一切の収入がなくなる。バイトはもし状況が良くなったら、回復できると言われたが、しかし、昨日までもう無理だったと言われた。半年間ずっとバイトがしないので、バイトがなかった内に、ほぼ毎日一回しかご飯食らなかった。いま論文を書きますから、ちゃんと休むことができなく、ほぼ毎日徹夜で勉強する。最近ついに体調が崩れました。でも、もうどんどんメンタルてきにも凄くストレス溜まった。

春学期で学校からの支援もほとんど受けずに、せめて勉強の進捗状況とか、日本語の支援とか、こうした援助など一切受けてなかった。本当に学校との連絡が切れていたという感じする。そのため、秋学期から府中市に引っ越すことに決めた。秋学期から、通学できるようになって、少し寂しい状況を改善していますが。やはり春学期の勉強の進捗が滞って、本当に春学期の進捗はゼロなので、論文は秋学期から執筆しはじめたけど、多分秋学期に予定通りに卒業出来ませんでした。もともと学内進学と考えましたけど、急に同じく考えをもつ日本人学生の数が増えて、それに対して、留学生としての私は日本人と比べての日本語力もなく、進学もできなかった。さらに、本学を含め、日本の学校は留学生を引き受けた基準も前よりかなり高くなりました。私もいろいろな理不尽なことでいろいろな昔できるはずだったことをあきらめるしかない。この一年間は本当に辛かったと思います。当面的にもうこの苦しい状況に耐えられなく、論文を書き終わったら、もう新たなバイトを探して新たな生活を始めようと考える。

コロナ禍で、前の職場に解雇されて、しばらく政府と大学の給付金、あとバイト先の補助金で何とか生活しましたが。新しいバイトを探す時、14回面接を受けたら、やっと新宿のあるドラッグストアで働くようになりました。府中市で家の近くでバイトを探したかったのですが、日本人と競争すると、やはり日本人を優先に雇う現象でした。

これからの就活についてすごく不安です。まずは就活についてなにをしたらいいかも分からないし、日本

人と競争することが怖いです。

あと、今一週間4回もシフト入れているので、勉強とバイトを両立することが難しいです。

それに都内でバイトして、コロナに感染しちゃう可能性が高いので、毎日緊張してストレスが溜まってます。

帰国できないこと；インターネット接続が時々不安定になること

I had a mental breakdown; I went to hospital on June 19th (Matsuzawa hospital) .I start taking sleeping pills and pills for major anxiety.Since July 2019 I start going to monthly therapy sessions at Tokyo Mental Health clinic (Chuo City, Shintomi).

特に感じていません。

今学期は奨学金のおかげで、バイト時間減ったけどまだ生活ができる。しかし、来年から奨学金終わって、新しい奨学金を受け取られるかどうかまだわからない。コロナがいつか収束できることもわからないから、来年の学費とか生活とかどうしようかなって今ちょっと不安。

出入国の時に祖国に戻れないか、または日本に行けないかという不安

- ・家の事情で仕送りが減り、バイトしないと生活が成り立たなくなったこと
- ・感染された場合、外国人であるため、保護や治療が金銭的問題で受けられない可能性の不安
- ・日本にいた外国人の友達が皆帰国を決めて一人で残されたような不安感
- ・就活の時に外国人採用が飛躍的に減少する可能性に対する不安
- ・コロナ禍が進んでアルバイトの時間が減らされる可能性に対する不安

入国・出国の状況の急な変化

国家の政策によるアルバイトの自宅待機の為の収入不安

症状が出た際、すぐ検査を受けれるか

陽性だった場合の治療費

就職活動中コロナの為募集が中止になった、面接につながらない→未来への不安

留学生たちの帰国に対して、自分も帰国すべきか日本で生活を続けるべきかの悩み
コロナで在宅の時間が多くなり、日本の文化などを感じる機会が少なくなり、留学の時間がちょっともったいないと思ったりしたことがあります。
Sometimes it's difficult to understand what to do if you don't feel good.
"I am extremely scared and very stressed that I can't graduate as I am scared of tuition fee and have problems with finding work. I am working as TA at the university, teaching privately, and applying for any other jibs, but it's very hard to get any. We spent all our small savings we had during previous months, as I couldn't work due to the corona virus. I even do not have money to buy a ticket to leave Japan. Before corona infection I was able to work in education field (TA at the university and teaching privately and at some institutions, now I ended only with TA job). I am still trying to be positive and having hope for the future.
I am too anxious about whether I can continue studying in Japan as I cannot save any money to pay for my tuition this semester and even next semesters. I was able to save enough before corona time from my part time job, but now I cannot anymore because my work is reduced. IU am also worried about leaving Japan because I do not have any financial ability to even buy a ticket to go back home, in addition to the VISA status here in Japan. I cannot even ask anyone to loan me money because everyone I know is having the same, and even worse financial situation.
私の留学のため夫と子ども二人で来日しました。コロナで通学できなく時期が3ヶ月も続いて、大変でした。出かけられなくなってしまい、子どもの外遊びも減ってきました。コロナの前は毎年帰省して、自国から研究のため沢山情報を収集してきて、研究が進んでいましたが、2020年になり、全てが予定通り進まなくなっていました。 現在感染者数が日々増加しています。不安を感じま

すが、健康に注意しながら、過ごしています。
二人の小さい子供がいるので、緊急事態宣言のときは院生室も閉まってしまい、妻が子どもを連れて行ける場所なども限られていたので、子供たちがいる家で研究や論文執筆に取りかかるのはほぼ不可能でしたし他に勉強できる場所も全て閉まっていたので、経済的な面ではなくそちらの面で非常に難しい状況でした。子供にもそういう状況はうんとストレスを与えていたと思います。しばらく感染者数が減ってきましたが、寒い時期になってからまた数が上がってきていますから、家族がコロナにかからないか一番不安に思っています。また、再び緊急事態宣言が出る可能性も高く、前回のように院生室が閉まるようなことになれば、論文執筆に支障が出てしまうためとても心配です。
"1) Since my income from the part time jobs has been cut, I could not save any money and living only on a scholarship. So if something happens (i.g. sudden visit to a hospital or sudden need to go back to my country) I have no financial resources to cover those expenses. Yes, we do have health insurance, but since it does not cover all, I would be still needing more money in that case, which I do not have.
2) Sitting home all day, being away from my family, not knowing when I will be able to travel freely and cooking/eating and gaining extra weight is among the reasons that was giving me anxiety"
学費について不安です
学校で授業を受けられないことが学費を軽減いただきたい。 バイトで学費を全額払っているため、かりに、感染された際にどうすればいいか、わからない
仕事を見つけるのは簡単ではない中に交流不可能
I do not know when I will be able to go back home, and if I can re-enter Japan if I go home due to the changes in border restrictions.

留学生支援の会に対する期待、要望、意見など
(自由記述)

留学生と日本人を交流できる機会を提供してほしいです。
短期・交換留学生への対応はもちろんのことですが、学部・大学院の正規留学生にも積極的にご支援いただきたいです。例えば、大学の事務窓口で理不尽な対応をされた留学生の友達もいるので、相談に乗ったり、事務の人へ声かけをするなどしていただけると助かります。
今まで全然知らなかったので、もっと情報をもらえると嬉しいです。
バザーの開催 交流イベントに参加したいです。
いつも留学生の生活を支援していただき、ありがとうございます
これからもよろしくお願いします。
例年のバザーを行って欲しいです。学生向けのバイト情報を提供してほしいです。
ご調査、ありがとうございます。良かったら、もう一度フードパントリーを挙げられますかなあ
ご調査ありがとうございます。
たくさんやってくださって、ありがとうございます。
今度、授業料が半額免除となりました。コロナの影響で授業料免除をいただければ本当に助かります。今、貯金がなくて、アルバイトの時間も少なくなります。しかも、大切な修論を書く時期です。ぜひ、授業料免除をもう一度ご検討、ご助かり、どうぞよろしくお願い致します！
コロナ禍の下で、優先的に生活相談、情報提供及び経済的な生活支援を展開してほしいです。
今まで、本当にありがとうございます。
海外学会参加のための支援金があるかと思いますが、もし今年度申請者がいなければ、何らかの形で学生たちに支援して下さるとありがたいです。たくさんのご支援、ありがとうございます！
学生支援緊急給付金のような外国人留学生にとって大事な情報をもっと発信してほしい。
来年、いろいろな体験活動を行うことを期待しています。

メールで情報提供して欲しいです
たぶん学部生はよく活動参加していると思います、私自身もよく情報を集めていなかったです。今回を契機に支援会を知り、組織があるという安心感がありました。
生活に困っている留学生を助けてあげて欲しいです。
1、アルバイトのご紹介や、仕事の紹介をお願いしたいです。 2、仕事に関する情報提供をお願いしたいです。
以前、学会発表のために支援してくださってとても助かりました。 この場を借りて改めて感謝を申し上げます
外国人留学生に対する就職情報が欲しい
今年は誰でも想像できなかったコロナが一年間続けて、まず中国からの私として、一番心から苦しいのは家への思いだと思います。国に帰りたい気持ちが強いだけでも、卒業や論文を書くなど、いろいろの原因で、帰らなくなってしまうことになります。しかも、コロナの影響で、一人で寂しいときには、以前のように日本での友達と簡単に会うこともすごく難しくなり、時にはつらい感じも出てきます。留学生支援の会に期待というより、私のようにそういった感じがあった留学生に心理的な助かりがあればありがたいと思います。
ご支援ありがとうございます。
バザーとかあれば助かります。見学旅行も気分転換できていいかもしれないが、そのお金を生活支援にするのもいいかもしれないですね。
留学生支援の会について留学生が日本に留学に来る際に強くアピールした方が良いかなと思いました。例えば、留学生向けのオリエンテーションの時に説明をする必要があると思います。留学生をどのように支援しているのか、どのようなサポートプログラムがあるのかということについて詳しく述べるべきだと思います。
留学生支援の会について聞いたことがあります。具体的にどのように留学生を支えているのか、どのような相談を受けられるのかわかりません。是非活動について教えてください。
I don't think I contacted ISSA before or went to one of

<p>their events and I don't know the extent of their efforts in students' lives so perhaps I have no expectations or a valid opinion about them.</p>	<p>べる時、留学生課に問い合わせた時、私費留学生は自分で部屋を探してくださいと言われました。国際交流会館の役割は何だったのでしょうか。チューター制度があるというのも2年生になって先生から他の留学生のチューターになってみないかと誘われてから知りました。学部留学生の中には高校を卒業し、初めて一人暮らしを始める学生がほとんどです。自分もそうでした。友達もいなく、情報もなく、不安ばかりで渡日して2か月ぐらひは毎日涙でした。留学生支援の会があるのことも、その当時は知らず、知っていてももうすでに生活相談や支援等があまり必要ではない、自分で何とかできる時期に知ったので、活用することができませんでした。渡日して初めて向き合った大学の姿があまりにも頼りのないものでした。最初の手続きや入国管理局でのビザ更新、シラバスの組み方等に呆れ、休学する友達も多かったです。学部留学生に対しても、せめて1年生には交換留学生と同様に対応してくれると心苦しい思いも少なく、より外大生としての誇りができるのではないのでしょうか。もっと留学生支援の会の事を学部留学生に知らせ、積極的に活用できるようになってほしいです。あ、学部留学生は結構人間関係を構築する事が難しい場合が多いです(知っている人とだけ付き合う、アルバイトが多い、お金の問題で部活を続けられない等)コロナが終わったら学部留学生も交流会に積極的に誘ってください。</p>
<p>例えば、アルバイト情報など提供あれば嬉しいと思います。</p>	<p>"留学生支援会という組織は知らなかったですね。その組織の説明などの資料をいただければと思います。どうぞよろしくお願いします"</p>
<p>日本語の添削をしてもらいたいです。</p>	<p>"I am grateful to ISSA for their all kind support and help. Their help meant a lot to me. My request is if they could help more graduate students like me (PhD candidate) having more access to work in our field at the university. Graduate students are great assets and most of us have rich experience that we can provide. Instead of teaching and engaging in other educational institutions, we could do the same for our university, which is a win-win situation for all sides. Help us engage and involve more in our field, at our chosen university which we love</p>
<p>イベントの情報をもっと教えていただきたいです。</p>	
<p>Help international student to meet each other's and know each other: i.e. provide opportunities for international students in Japan to meet in one place and build relationships. It's hard for individual people to take initiatives by themselves; events provide easier opportunities to get to know new people and build friendships.</p>	
<p>"情報提供の方面。例えばどこかコロナ対策支援があることとか</p>	
<p>もっと留学生と連絡を取り合ったいなと思えました。特に学部留学生の場合は日本人と同じ扱いをされているが、事情は国費や短期留学生と同様だと思います。心理的不安や経済的混乱で休学し、帰国する友達が数人いました。適切な時期に生活相談ができたらしかししたら休学しなかったかもしれません。今後の留学生支援の会は私費留学生にも手を伸ばして相談や日本人や他の留学生との交流イベントを進めた方がいいと思います。</p> <p>留学生と日本人と一緒にできるボランティア活動があったらいいなと思えました。それと就活の時に一人で不安に思っている留学生もいると思いますので就活と一緒にできる留学生や日本人の友達が増えたらいいなと思えます。また、3、4年生の時の留学生はほぼ新しい友達や知り合いを作ることができません。無論、日本人もそうであるかもしれませんが、留学生は日本に家族もなく、友達も少ない方なので休学する友達が増える3年生の時期は一番精神的につらい時期だと思います。その時に参加できる交流会などを開いてくれれば新しい出会いと生活の活力にもなると思います。</p>	
<p>学部留学生は日本語ができるという理由一つだけで、入学してからのすべての手続きを一人でこなさなければならなかったです。また、最初の国際交流会館を調</p>	

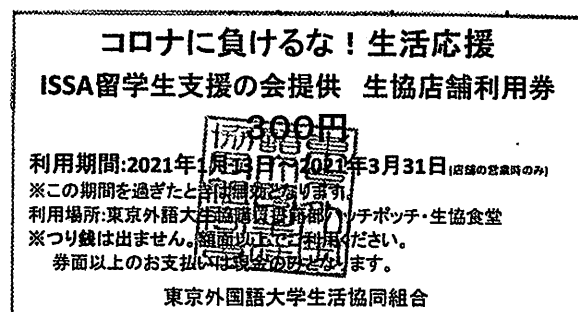
belong to."
I have enjoyed a lot of events held by ISSA before and I appreciate all the support they extend to foreign students. Honestly, I have no expectations but any support now is truly welcomed. I am thankful for even asking us about our situation and opinion.
コロナの前まで、留学生支援の会のいくつかのイベントに参加したことがあります。安く旅行に行ったり、高級な日本料理を食べたり、バザールでは家庭に必要な食器などを安く買ったりしてとても助かりました。
今、博士後期課程 3 年生の国費留学生なのですが、来年度になると奨学金がなくなり、帰国予定の 9 月までの学費などを心配していますので、給付金や学費を免除等に関する情報を教えていただくと助かると思っています。
"学生支援緊急給付金とてもたすかりました。ありがとうございます。 もし、コロナがおわってイベントとかがあればぜひボランティアになりたいです。 よろしくおねがいします"
留学支援会のイベントや話会、交流会などを大学のホームページに載せてください。
とくにはない
As a foreigner, I feel that the systems in Japan (pension, paying tax, system about working hours etc) are difficult to understand even though I can read Japanese well, as the information leaflets given by the city office and difficult to understand in the first place. Also, since foreigners are subjected to certain kinds of limitations (e.g. limit on working hours), the information given by the city office often does not apply to the situation I am in. I think it would be helpful if there was someone I could consult about these kinds of things, especially to get information pertaining to the specific situations that foreigners are in, and not just information for Japanese people as a whole.

5) 「コロナ禍の下での留学生の生活調査」回答者に対する「コロナに負けるな！生活応援券」配布事業

後期になり、対面授業のためにキャンパスに来るようになった留学生の生活費を少しでも支え、激励するために少額の金券を広く配布することにしました。配布の名目は困窮支援を前面に出すのではなく、今回実施したコロナ下での生活実態調査への回答協力への謝礼とすることにしました。

金券の種類は、コロナ下で深刻な経営難に陥っている本学生協への支援も考慮し、生協の食堂と売店で使用できる商品券に決めました。生協に依頼して本会の名称を入れた額面 300 円の「コロナに負けるな！生活応援券」を作成してもらい、10 枚 3000 円分を回答者に配布しました。

回答者には、回答へのお礼と応援券受け取りの日時確認のメールを送付し、1 月中旬の 3 日間、会の連絡室において簡単な質問、会話をしながら、手渡ししました。



配布した生活応援券（見本）

4. 留学生から

1) 給付金受給者から

昨年 7 月に支援の会で実施した「新型コロナウイルス感染下での留学生の学び継続を支援する緊急給付金事業」（詳細は会報 65 号をご覧ください）につきまして、受給した留学生からお礼の言葉が届きました。

コロナによる留學生活の困難と

支援の会のサポート

ドストマトフ フィルダオス
総合国際学研究科研究生
(ウズベキスタン)

日本文化、日本の教育、日本人の見方などをもとにして確立された日本社会を学び、帰国後勉強になった経験、知識を使いながら、国の役に立ちたいです。

日本文化とウズベキスタン文化の類似。日本の“おしん”という映画はウズベキスタンの若者のみならず、大人の見方までも影響を与えていました。その結果、日本留学希望者が増加してきました。そして、子供のころからあった来日の夢はだんだん明確な計画となりました。大学の建築学部で勉強している際、日本建築、日本人の建築家について様々な授業がありました。江戸時代や明治時代において建設された霊廟と共に現代の建物が驚かせます。特に、金閣寺、薬師寺、松本お城とともに明治、大正の洋式建築、または、東京駅と丹下健三によって模られた東京オリンピック会場に興味深いです。

来日する前にウズベキスタンの小さい会社で働いていましたが、そこで日本的な言葉である“改善”と言うのを実施し、たくさん利益をもらえました。今でもそういうシステムが成功し、進んでいます。

大学の専攻分野が建築学でしたので、日本の古い建物と現代的な建物の建築と共に、都市計画上の生じる問題の解説方法を学習したいです。日本とほとんどおなじようにウズベキスタンも山に囲まれていて、日本で学ぶ日本の建築や、都市計画などが帰国してから、役に立つと思います。

コロナ感染拡大まで全部が予定通り進んでいましたが、4月から意外と私の生活で色々な問題が生じてきました。なぜかと言うと、コロナ感染拡大のせいで、私がアルバイトする工場で中国から輸入品がだんだん減少し、やる仕事が少なくなってきました。仕事が減ってきてから、まず、私みたいな外国人はバイトできなくなりました。

そして、ウズベキスタンにもコロナウイルスが感染し、空港が閉まることになりましたので、ツーリズムも止まり、外国から来るお客様の人数が非常に減少し、観光ガイドとして働くお父さんの収入がほとんどなくなりました。ですから、わたしは東京外国語大学の春学期分の学費の支払いとアパートの家賃、または、色んな生活費や、交通費に使うお金がなく、困難がありました。同時に、私の友達、知り合いなどは大学のほうから一応サポートされて、春学期の授業料を払わないようになりましたが、わたしは私費留学生として勉強していますので不可能となりました。そんな困難な状況でも新しいアルバイトを探してみましたが、残念ながら、見つかりませんでした。あったバイトの求人者も“外国の方は、仮に、採用できません”と言いました。そのせいで、ストレスがたまり、夢中になって、大学の授業を学習できませんでした。

困ったときに、頂いた10万円の給付金が私にとって大事なサポートになりました。おかげさまで頂いた金額と自分の貯金を合わせて、大学の授業料を払いました。

皆さんに支援して頂いたのは私だけではなく、私の家族や、友達にとっても大事なサポートになったと考えています。しかも、私から明るい将来を期待している家族、親戚までもいい影響を与えたとおもいます。皆さん、どうもありがとうございました。

2) 支援の会の皆様へ

ファルゾナ ドストマトフ

私はファルゾナ ドストマトフです。

タジキスタンで生まれて、ウズベキスタンの首都タシケントで育ちました。

2007年タシケント国立東洋学大学附属高校で日本語を専攻し、2010年タシケント国立東洋学大学の日本語学科に入学しました。学部3年生の時に日本に1年間留学することができました。日本に来るまでに日本語しか勉強しませんでした。

当時タシケントに日本人も非常に少なく、日本文化に接する機会もほとんどなかったです。日本に来てから日本の文化に実際に接触することができて、様々な貴重な体験をしました。1年間の充実した留学期間を終え、ウズベキスタンに帰りました。帰国後学部を卒業して、また日本に留学することを決心しました。

2016年、また同じく東京外国語大学に私費研究生として留学することができました。

2017年、東京外国語大学大学院に入学し、2020年3月に卒業しました。大学院で教育学を専攻し、タジキスタンの日本語教育の課題について研究をしました。私費留学生のため、アルバイトをしながら院で勉強しました。2017年指導教員の研究補佐として1年間アルバイトをし、翌年2018年留学生支援の会で院を卒業するまでアルバイトをさせていただきました。支援の会の方々にあらゆる面でお世話になり、私はゴールデンタイムな学生生活を送ることができました。私のお姉さん、お母さん、おばあちゃんのように私の悩みなどを聞いてくれて、やさしくアドバイスをしてくれました。心は感謝の気持ちでいっぱいです。現在コロナ禍の影響や就職活動の知識不足のため就職は未だに決まらず、就職活動中ですが、早く社会人になって私も人間に手伝える人になって恩返ししたいです。



卒業式の記念に。ファルゾナさん、とてもきれいです。



支援の会のメンバーと記念撮影

5. 今年の活動を振り返って

コロナ禍と留学生支援の会

留学生支援の会幹事 高橋京子

留学生支援の会に入り4年が過ぎました。この1年はコロナウイルスの為、活動ができず、留学生と触れ合う事もなく淋しいものでした。

例年なら、提供していただいた品物でのバザーではオープン前から列を作る彼ら。

幹事として参加した川越散策(2019年12月実施)では授業で習った、七五三の親子連れを実際に見て喜んでいて留学生や駄菓子を食べて自国のお菓子と似てると話してくれたり。

イベントの準備は大変ですが、日本に興味を持ってくれる若い学生とふれあえる喜びと日本人としての学びもありました。

令和2年10月に国が新たな受け入れを決めました。幹事会ではどの様に彼らをサポートできるか話し合い、先輩幹事が中心になりウェルカムキットを作りました。

また個人的には外大のフードパントリーにジ

ヤガイモとお米を届けました。

原発や地震などの問題のある日本の国を選んで来日する留学生たちに、日本に来て良かったと思ってもらえる活動を楽しく出来たらと思います。皆さんのできる範囲での参加をお待ちしています。

コロナ禍と留学生支援の会

留学生支援の会幹事 きまた 木全 繁

さてさて、妻から、こんなのに参加しようと思うんだけど、と言われたのは、かれこれ3年程前の夏前でした。しばらくは幹事会にオブザーバーとして参加し今日に至っていますが、当時は会を立ち上げた方々が一線を退き、また長く留学生課に在職しつつ幹事として事務局を支えてくださった方が退職され、まだ右往左往している時でした。ですので、私達も猫の手として、温かく幹事会に迎え入れていただきました。

実際の会の活動としては、会を立ち上げた趣旨の一つでもあった、寄付金を活用した給付や貸付等の活動がひと段落し、交流事業が主体となり、いろいろ手配や案内の雑務はありますが、留学生と楽しく時間を過ごすことが中心となっていました。定年を見据えて、仕事以外でも何か…というこちらの目論見とも合致し、月に一度の幹事会と年に何回か行事のお手伝いで、無理なく参加できていました。

それが、昨年来の新型コロナウイルスの世界的な蔓延で、行事どころではなく、そもそも留学生も来日できず、会として何をしたら良いか、何ができるのかと言う、会の存在意義を問われる事態になってしまいました。(正直、会長からの週に何回も来るメールは、ちょっとだけ鬱陶しくとても週日仕事をしながら対応も出来ず、当然放置という状況でした。今もその傾向ですが…ゴメンナサイ)。

このあたりの温度差はさてどうしたものかと思いつつ、それもまたこの会らしくて良いのかなと、昨今は感じております。現会長は、直近まで

大学で学生の指導や対応をされていた故に、現下の留学生や学生の状況に気を配り、できるだけ対応をしたいという至極真つ当な考えで今の会の舵取りをしています(急に会長に招聘され責任も押し付けられる中、それはさぞ大変なことだろうと率直に思っております)。他の幹事は、参加の動機も経過も様々で、近在で何かお手伝いを、と言い連絡室の当番をして下さっている方、着付けなどの特技を活かしてくださっている方、卒業生として何かお手伝いを、と参加している方、我が家のように、子どもが卒業生または在学生なので何か…と思い参加した方等々です。リタイアした人、現役の勤め人や大学等の教員、いわゆる主婦など、生活基盤も様々です。使える時間も、ゆとりある人から幹事会プラスアルファでぎりぎりの人まで様々で、それでも何となく話し合いながら運営しています。それゆえ自分は、時に一所懸命になりすぎる(?!) 会長の足を引っ張り、まあまあとするのも一つの役割と割り切り、この一年は幹事会に(時々サボりつつ)参加してきました。

本当は、工場見学や街歩き、大学祭等にバザーでの参加など、遊びゴコロ半分でお手伝いする活動がないと、実につまらない(?!) 幹事会なのですが、コロナが落ち着くまでは致し方ないところです。

さてこの長々とした駄文の趣旨ですが、本来そうした一人一人の空き時間を使い、気楽に参加できる幹事会ですので、是非興味がある方は参加して下さいと言うものです。よろしくお願いします!

6. 今後の活動について

留学生支援の会では、今後も引き続き新型コロナウイルス感染症拡大の大きな影響を受けている留学生に支援を続けていきたいと考えています。

次年度も、感染拡大状況を見ながら、緊急支援金の支給、ウェルカムキットの配布等、継続して実施することを検討しています。引き続き、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

ご入会・ご寄付、ありがとうございます

新規加入者

■一般会員(敬称略)

(令和2年11月1日～令和3年3月14日) なし

寄付者

■一般寄付(敬称略)

(令和2年11月1日～令和3年3月14日)

伊藤真由美 小野玲子 加賀晴子

佐久間美知 鈴木文子 榎坂昌業 那須紀夫

山口亨一 鷺尾治生

幹事会から

1) 「会員番号(会員 ID)の発行について」

会報65号でお知らせいたしましたとおり、今回より会員の皆様に会員番号(会員 ID)を発行いたします。会報発送の際に宛名の下に会員番号を記載しますので、ご確認ください。

2) 幹事会の開催

以下の日程で幹事会を開催しました。

9月27日(日) 11月22日(日)

12月20日(日) 令和3年2月28日(日)

お問い合わせ先

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-2
東京外国語大学国際交流会館2号館1階
留学生支援の会連絡室

TEL: 042-330-5803

FAX: 042-330-5189

*現在、連絡室は閉鎖しています。

お問い合わせや、会員の方の住所変更等のご連絡等は下記のアドレスにメールでお願いします。

ryugakuseishienokai@gmail.com

留学生支援の会ホームページアドレス

<https://www.tufsissa.com>

HPとあわせ、留学生支援の会のフェイスブックでも、活動予定等ご紹介しています。

<http://www.facebook.com/tufs.issa2>

令和3年3月14日現在

会員数: 929名

すべての活動は、皆様の年会費とご寄付で行われております。本年度会費を同封の振込用紙にてお振込くださいますようお願い申し上げます。

29年度新入学の会員の皆様は、お納め頂きました4年分の会費の期間が終了致しましたが、引き続きご協力くださいますようお願い致します。

※ ひとりでも多くの方々の納入のご協力を
お願い致します。

一般会員: 年会費 3,000円

協賛会員: 年会費 20,000円

編集後記

マスク姿が日常になり、素顔で人と触れ合うことのできない日々が続いています。日本での多くの出会いを楽しみに来日した留学生の皆さんにとって、つらいことも多いのではないのでしょうか。支援の会としても、何ができるか模索した1年でしたが、会員の皆様のお力で、様々な支援活動に取り組むことができました。ありがとうございました。引き続きご支援を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、会報66号の発行が遅れましたことをお詫びいたします。(木全玲子)

©Copyright 2021, TUFSS International Student Support Association